

不安定――そして目的

リチャード・L・エバンズ

「若者の直面する問題という話の中 で, レバリング・タイソンはこう語っ ている。『ここ数年のうちにどのよう なことが起きるか,否,今から2,3 カ月のうちに何が起きるかさえ知って いる者はひとりもいないだろう……。 従って私が思うのは、まずこの人生の 不安定なことを事実として認めるだけ の知性を持たねばならぬということで ある。そのためには知性をできる限り 高めて, あらゆる物事への適応性を増 すようにしなければならない。そうす れば、いかなることが起きようとも自 信をもって冷静に対処することができ る……そのような人は、人の将来に指 針を与えてくれる全能の神の知恵に不 信を抱くことはないのである。1 私た ちが日頃ある程度まで目にし、しかも それでいて逃れることのできない人生 の不安。それをそのまま受けとめて、 冷静沈着な心と自信とをもって突き進 む。天父の限りない慈悲と私たちを導 いてくれる力とを信じながら。これこ そ私たちの心に安らぎと力とを与えて くれる賢明な助言ではないだろうか。 私たち人間が揺れ動く不安の海に生き

ていることは否定できない事実である。しかしながら,あまりにも多くの人々が,あまりにもしばしば,この不確さや困難,また人生の隘路に遭遇して,必要以上に心を動揺させてしまうのである。この不安定,不確かさに対処する最も確実な手だては,価値ある目的を定め,それに向かって邁進することである。セオドア・T・マンガーは言った。「確実でしっかりした目的がなければ成功はない。目的のないころには何も生じないのである。まさに目的は,品性,教養,地位,その他あらゆる達成の基となるものである。」2

カーライルの次の言葉は有名である。「目的を持たない人間はかじのない舟のようなもの――まさに浮浪者であり価値のない者であり,その存在は人間であって人間ではない。目的ある人生を送ろうではないか。そして,神が与えたもうた仕事に全身全霊を打ち込もうではないか。」。ウイリス・R・ホイットニー博士はこう語る。「希望していることができないと言って,その理由をあれこれ並べたてる人がいる。だが彼らに必要なのはただひとつ,どう

すればできるかを考えることだけである。」 確かに、困難や失意や無常は消えないであろう。しかし、今ほど人間の力が求められ、また主のために働く機会が豊富に備えられていた時代がかつて存在しただろうか。私たちは、学識を深められるだけ深めると共に、できる限り数多くの事柄をなしとげ、前進しなければならない。そして私たちのみならず、生命を与え生きる目的を与えてくださった御方に対してもますます有用で受け入れられる存在となることができるように、努力しなければならないのである。

- レバリング・タイソン、ミュールンベルグ大学学長、 The Problems
 Facing Youth 「若者が直面する問題」
- セオドア・T・マンガー (1830—1910), アメリカの聖職者
- 3. トーマス・カーライル
- 4. ウイリス・R・ホイットニー博士 ゼネラルエレクトリック社調査研究所 員

聖徒の道 1974 8月号

末日聖徒イエス・キリスト教会

もくじ

大管長会 スペンサー・W・キンボール N・エルドン・タナー マリオン・G・ロムニー 十二使徒評議員会 エズラ・E・ピーターセン デルバート・L・スティプレー リグランド・リチャーズ ヒュード・W・ハンター ゴードン・B・モンソン トーマス・S・モンソン

ボイド・K・パッカー マービン・J・アシュトン ブルース・R・マッコンキー

L·トム・ペリー

諮問委員会

J・トーマス・ファイアンズ (内務伝達部長)

ジョン・E・カー

(配送翻訳部長)

ドイル・L・グリーン

(教会誌編集主幹)

ダニエル・H・ラドロウ

(教会教課企画調整主任)

統一誌編集主幹

ラリー・ヒラー

日本語コーディネーター八木沼 修 一

ローカル編集 高 木 まりゑ

心の糧「不安定―そして目的」 リチャード・ L ・エバンズ
回復にともなう恵み
「賛成の方は」アルマ・P・バートン
「逸話集,近代の使徒の生 涯 より」 344レオン・R・ハートショーン
アンソン・H・ランド副管長
文字の起源
<聖典を調べること> 352ロバート・J・マシューズ
問題解決の鍵を見いだす
日々の恵み 354
タルソのサウロ 357
小さなお友だちへ
きりぬき絵 360
おもちゃばこ 361
ひげのかいじゅう362マーレイ・ T ・プリングル
什分の一の祝福 364
子孫に知らせるため365ポール・F・ローヤル
神のみわざを清く押し進める 368スペンサー・W・キンボール
祈りの重要さN・エルドン・タナー
聖 霊マリオン・G・ロムニー
ローカル・ニュース 382

聖徒の道8月号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会 東京都港区南麻布5-8-10 配 送 東京ディストリビューション・センター 東京都港区南麻布5-10-25 定 価 年間予約1,300円 1部130円 海外予約1,800円

回復にともなう

恵み

第一副管長N・エルドン・タナー



この地上における神の教会、神の王国の会員であることはこのうえもない幸せである。かつて西ヨーロッパ伝道部を管理していた頃、私はしばしばこのような質問を受けた。「なぜあなたがたは来るのですか、なぜ宣教師を派遣してこのキリスト教国家にアメリカの宗教を教えようとするのですか。私たちはアメリカ合衆国が存在する前からクリスチャンだったのですよ。どうしてキリスト教国でない国々や信仰を持っていない人々のところへ行かないのですか。」またモルモン経についても反論してきた。「私たちは聖書を持っています。ですから、今の時代に神が啓示された聖書以外の聖典なんて信じられないし、必要もありません」と。

そこで私たちは、聖書そのものには、かつては神のみ言葉だとされていた数多くの書き物が含まれていないこと、そしてそれらは福音の真理に関する知識を与え理解を深めるものであったに相違ないということを、疑問を抱く人々に心からの愛をもって申し述べたいと思う。聖書には背教の予言が載っており、また神の目的を成就するために背教の後に回復が必要なことを述べた予言も記されている。また私たちは聖書の中に、聖典の研究家や新旧約聖書を説いている牧師、教師でさえも理解することができない部分や不明瞭な部分が数多くあることを指摘することができる。では、これからそれら聖書の予言について考えてみよう。

イザヤは末の日を指してこう書いている。「地はその住む 民の下に汚された。これは彼らが律法にそむき,儀式を変え, とこしえの契約を破ったからだ。」(欽定訳イザヤ24:5)

アモスも記している。「見よ、わたしがききんをこの国に送る日が来る、それはパンのききんではない、水にかわくのでもない、主の言葉を聞くことのききんである。彼らは海から海へさまよい歩き、主の言葉を求めて、こなたかなたへはせまわる。しかしこれを得ないであろう。」(アモス8:11,12)

予言の成就

私たちが新旧約両聖書に見る背教と回復にかかわる予言が成就したことは,歴史が証明している。黙示者ョハネは言っている。「わたしは,もうひとりの御使が中空を飛ぶのを見た。彼は地に住む者,すなわち,あらゆる国民,部族,国語,民族に宣べ伝えるために,永遠の福音をたずさえてきて,大声で言った,『神をおそれ,神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである。天と地と海と水の源とを造られたかたを,伏し拝め』。」(黙示14:6,7)

この聖句は、ジョセフ・スミスを通して行なわれた福音回復の物語を聞いて初めて理解できる。天使がジョセフ・スミスにモルモン経の記録を渡したが、このモルモン経は、キリストを証する新しい証人であり、聖書の教えと完全に一致し、学者たちも認めるように、翻訳によって損われたと思われる多くの箇所、あるいはさらに進んだ知識と光がないために完全に理解できなかった箇所を明らかにし、正しい形で示してくれるのである。

聖書

そこで私たちは、疑問を抱く人々に、私たちは文字通り聖書を受け入れるものであると申し上げたい。たとえそれが他に抜きん出ているものではないとしても、私たちには聖書を面する聖典が与えられているため、世の多くの人々よりもその解釈は文字通りであると言える。私たちは、聖書が真っているため、聖書が真っているため、聖書が真っているとを証明する。なたちは、そのことを彼らに確信させることができる。そこで私たちは、そのことを彼らに確信させることがであり、そこで私たちに関心を寄せておられ、御自分の思いととでもも今も神の子らに関心を寄せておられ、御自分の思いとである。なぜなら、「われらは、すべて神のこれまでに啓示したるったもうことを信じ、なお今より、神の王国につきて多くの偉大にして重要なることを序したもうことを信ず」(信仰箇条第9条)とあるからである。

神会

この末日に与えられた最も重要な啓示といえば、それは父なる神とその御子イエス・キリストが、ひざまずいて自分はどの教会に加わるべきかと神の導きを求めて祈りを捧げていた少年、ジョセフ・スミスの前に現われ、御自身を明らかにされたことであろう。

この聖なる示現の中で、ジョセフは「筆紙に尽し難い輝き と栄光とを有ちたもう」ふたりの御方が自分の真上の空中に



「神がかつては人の如 くあったこと, そして 神が今ある如く人は神 のようになることがで きる」

立ちたもうのを見た。そして,その中のひとりが仰せになった。「ジョセフよ,こはわが愛しなり,彼に聞け。」(ジョセフ・スミス 2:17)ジョセフは森を去りつつ,自分が生きていることを知っているのと同じように,確かに神は生きておられること,イエスは神の御子であり,生きておられること,そして人は神の形にかたどって造られたこと,神は祈りに答えたもうことがわかった。この証は,ジョセフがなすべく選ばれていた業に対し備えをするうえで是非とも必要だったのである。

ところで、世は神の属性について知らなかったし理解もし

ていなかった。そして、神は宇宙に広がる途方もなく広大なエッセンスであり、また人の心にも住むごく小さなエッセンスであると考えてきた。また、神とイエス・キリストは別個の御方であるということもわからなかった。しかしジョセフに与えられたこの証は、キリストがバプテスマをお受けになったとき、バプテスマのヨハネに与えられた証と同じものであった。そのとき、天が開かれ、聖霊がはとのように下り、天から神のみ声があったのである。こうして、神会は御三方で構成されているという教義が明確にされた。

THE BUILDING OF WITHOUT OF PROPERTY OF THE SECOND OF THE S

救いの計画

まさしく古代の予言者が宣言したと同様に、神は近代の啓示を通じて、私たちは神の霊の子供であり、地球創造の以前に天において神と共に住んでいたこと、また私たちは父なる神のみもとに帰るにふさわしいことを証明するため前世からこの地球に送られたことを知らせたもうた。

キリストは自ら、「これわが業にしてわが栄光、すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり」(モーセ1:39)と言われたように、人類の罪を贖うためこの地球に生を受けられた。キリストの贖罪により全人類は死より復活するが、福音の律法と儀式に従順である者のみが神と共に永遠の生命を享受するのである。私たちは文字通り復活、すなわち肉体と霊とが再び相合することを信じている。そして現世における行ないに応じて裁きを受ける。私たちには自由意志が与えられている。従って私たちは自由意志を行使して義を選び、神の教えと戒めを受け入れ、それに従って生きることが最も大切なのである。

神殿事業

福音の喜ばしい教えと真理の中で、世の人々にはおおよそ 理解されていないものがある。それは、私たち自身と死んだ 先祖のための神殿事業である。福音の知識なくして世を去って行った人々が福音を聞く機会があり、信仰をもって受け入れた人々と同じ救いの儀式にあずかる機会を神が備えられなかったと信じることは、まったくもって理にかなわぬことである。私たちは神から授けられた権能の下に、死者のための身代わりの儀式を執行する唯一の民である。こうして神殿の儀式を行なうことにより、私たちは死者のためにひとやの扉を開放し、彼らが進歩して主の喜びに入れるように備えをするのである。

神殿の儀式を受けた経験のある方は、今もとこよにも家族が結び固められること、またそこで交わした誓約を守るとき、天の王国で永遠の生命を得、繁栄するということがどんなにすばらしい特権であり、祝福であるかをよく御存知であろう。私たちは、神がかつては人の如くあったこと、そして神が今ある如く人は神のようになることができる、と教えられている。何と栄えある教えであろうか! しかしながら、そうなれるかどうかはみな、私たちがイエス・キリストの福音にどれだけ忠実に生きるかにかかっているのである。

聖典を調べなさい

私がこれまでお話してきた事柄に関して、聖典の中からいくつかあげてみてもよかったのだが、それよりも、あなたがたが自ら聖典を調べ、そこから得られる胸躍るような霊的経験を身をもって味わって欲しいと望んでいる。高価なる真珠のジョセフ・スミスの示現を読み、天使の訪れを受けたときのジョセフの気持に思いをはせ、深く考えるときに、あなたがたの証はさらに強められ、生活はより豊かなものとなるであろう。

聖書の天地創造の顚末を読み、そして次に、そのことにつ

いてさらに詳しく知るため高価なる真珠を読んでいただきたい。あなたがたはそこにサタンの役割を知り,その落とし穴からあなたがたとあなたがたの子供たちを守るように警告を受けるであろう。新約聖書のヨハネ伝の中で主が言われた,「わたしにはまた,この囲いにいない他の羊がある。わたしは彼らをも導かねばならない。」(ヨハネ10:16)という聖句から,主の意図されたことを学んでいただきたい。このことについては,モルモン経ニーファイ第三書に,キリストがアメリカ大陸のニーファイ人を訪問したときの有様が感動的に描写されている。

あなたがたの聖典に対する愛と神のしもべを愛する思いは、あなたがたが旧約聖書のアブラハムの息子イサクに対する愛の物語をはじめとして、兄弟によってエジプトに売られたヨセフが、主に従順であることにより彼の家族を救った話、またモーセ、サムエル、ダビデ、ヨナタンの物語、ソロモンの卓越した知恵についての知識に慣れ親しむときに、強められるであろう。また、新約聖書にある偉大な教師、救い主であるイエス・キリストと歩みを共にする特権にあずかった人々の経験を読むときに、あなたがたは霊感を受け、より一層高尚な生活へと導かれるであろう。また、主がアメリカ大陸の古代住民に示されたみ業を伝えるモルモン経ほど美しく感動的なものはない。この記録によると、初めてこの地に渡った民は、エルサレムの崩壊が近いことを主から警告されてやって来たのであった。

「この世にイエス・キリストの教会を再び創立する準備のために……, また後にはその通りに組織せられた教会の行くべき方向を知らせるために」与えられた近代の啓示の書,「教義と聖約」に精通されるように。

証

私は今日ここで、これまでお話してきた事柄が真実であり、神は確かに生きておられ、イエス・キリストは神の御子であり、私たちが不死不滅と永遠の生命を得られるように降誕し、死を受け、復活されたことを証申し上げる。またこの末の日に、神の予言者ジョセフ・スミスによって福音が回復されたこと、この教会は古代の教会に在ったと同一の組織をもつイエス・キリストの教会であること、神は今日も神の代弁者、予言者であるハロルド・B・リー大管長を通じて、この地上におけるイエス・キリストの教会のみ業を導いておられることを証申し上げる。

願わくは、私たちみなが今日の予言者の警告を心に留め、 忠実な人々に約束された祝福にふさわしく生活するだけの理 解力と勇気と強さと希望と決断力を持てるように。そうする ならば、私たちは、「良い忠実な僕よ、よくやった」(マタ イ25:21)との言葉を受けることができるであろう。以上の ことをイエス・キリストのみ名により、へりくだりお祈り申 し上げる。アーメン。

「賛成の 方は

アルマ・P・バートン

「賛成の方は、挙手をしてその意を 表わして下さい。」 ほとんどの末日聖 徒はこの言葉を耳にしたことがあるは ずである。聖餐会では、ほとんど毎週 のように, ワード部の新しい役員や教 師に対して支持の挙手をする機会があ る。これはワード部やステーキ部の集 会であれ総大会であれ、ごくありきた りの決まりきった行為と受け取られが ちであるが、実は全く神聖で重要な出 来事なのである。

しかしながら多くの人々は、教会員 によって行なわれるこの全会一致の原 則の真の意味を見落としている。

1830年は教会が組織された年である が, この年の7月, 主は教会の指導者 ならびに会員に対して全会一致の原則 を教えられた。次にあげるのがその啓 示の言葉である。

「すべてのことは、大いなる祈りと 信仰とによりて、各教会各々の全体一 致によりて為されざるべからず。そは 汝ら何事もすべて信仰によりて受くべ ければなり。」(教義と聖約26:2)

同年9月,主は同じ全会一致の原則 を再度強調された。

「そは、すべての事は秩序正しくな されざるべからず, 而して信仰深き祈 りにより, 教会員総体の承諾によりて なされざるべからず。」(教義と聖約28 : 13)

また主はジョセフ・スミスに、教会 の管理定員会における決議は満場一致 を旨とすること、また各会員の賛成の 意志が表明されなければならないこと

を教えている。(教義と聖約107:27参 また決議するときのことについ て,次のような勧告も与えられた。

「…決議は、全くの正義、神聖、謙遜 柔和, 堅忍, 信仰, 善徳, 知識, 節制 忍耐,敬虔,同情,仁愛などによりて 為されざるべからず。」(教義と聖約 107:30) 教会の管理定員会ならびに 評議会は,審議に関して,世間一般の やり方で行なう他の組織や団体とは趣 を異にしている。この相違については 次のように説明されている。

「……教会の評議会においては、す べて満場一致により決議される。世間 では過半数が会を圧倒し, 少数派の意 見は退けられる。しかし教会の評議会 においては満場一致が可能である。な ぜなら、自己の利益を考えて自分の意 見を是が非でも通そうとする人がいな いからである。そのような教会の集ま りでは、主のみたまが満ちみちるとき にすべてのことがなされる。まさしく 『全くの正義,神聖,謙遜,柔和,堅 忍,信仰,善徳,知識,節制,忍耐, 敬虔, 同情, 仁愛』によってなされる のである。会員一人一人が,審議に付 されたあらゆる事柄について, 自己の 見解を上に述べた数々の必要な資質に 一致させ、私心を取り除く。このよう にして一致が保たれるのである。これ らの評議会では各会員が自由に意見を 出し合う。しかし一度多数派の意見の 採択が確認されると, 少数派はその意 見を喜んで支持するのである。なぜな ら採択される意見は常に真理に基づく ものであり、まさしくこの評議会は 『人々の声は神の声なり』という絶対 的真理を具現する会だからである。」 (Doctrine and Covenants Commentary 「教義と聖約注解」〔英文〕P.

701)

聖徒は指導者を信じ,あらゆる提議 に対して満場一致で賛意を表わすこと ができる。それは、提議され会員の支 持に付される事項は, すべてあらかじ め主の賛意を得たものだからである。

スティーブン・L・リチャーズ副管 長は「教会では満場一致の考え方を受 け入れ,実際に行なっている。なぜな

らそれは義の原則に基づいているから である」と述べた。彼の言葉をもう少 し引用しよう。

「このことが個人の思想や表現の自 由をくつがえすものであり、個人の気 持は指導者の解釈のなすがままになっ ていると考える 人がい るかもしれな い。しかし私は、このみ業の特質や真 の精神を一度獲得するならば強制とい う感はあとかたもなく消え失せてしま うと申し上げたい。私たちの満場一致 の思想および行為は、だれかが想像す るような強制とか拘束とかいったもの から生じたものではない。それは義の 原則に基づいた普遍の同意、天父のみ たまの働きに対する共通の答えから来 るものなのである。懸念する点はひと つしかない。それはみ業の創始者であ る神を冒とくすることだけである。」 (Conference Report「大会報告」

1938年10月, 〔英文〕 P.116)

教会を管理する幹部の人々は、従順 が信仰を基とし、祈りに満ちた慎重な 考慮の末に導き出されることを切望し ている。ジョセフ・F・スミス大管長 は、指導者が私たちに勧告を与えると きにはその勧告に従わなければならな いが、それは理解に基づいた従順でな ければならないと述べた。

「…指導者が、これに従いなさい、あ そこに行きなさいと語るとき、また私 たちを召すとき,私たちは指導者に従 わなければならない。しかしそれは奴 隷の従属とは異なる。あたかも道具の ように盲目的に従うのは良くない。い かなる末日聖徒もそのように振る舞う べきではない。福音を奉じてきた人で このような行動を取った人はだれもい ない。そうではなく,自分でよく理解で きるようになるまで、神のしもべの勧 告に喜んで耳を傾けようとしてきたの である。従ってむずかしいのは末日聖 徒に正しいことを行なわせることでは ない。正しいことを理解させることな のである。」(Journal of Discourse 「説教集」第12集, P. 329)

この正しいことの把握という問題 は、幹部の兄弟たちの思いを常に最初 に捕えるものである。従順とは、提示



意味する。そして一度判断を下せば、 それに対する責任は自分が負わなければならない。すなわち、もし判断を誤れば、その結果生じる苦しみに甘んじなければならないのである。なぜなら、主の教会における責任ある地位に召された人に対して反対の立場を表明したのであるから。

チャールズ・W・ペンローズ副管長は、教会での全会一致の原則にはさらに別の理由があることを指摘した。彼の説明はこうである。

「私たちは幹部を予言者, 聖見者, 啓示を受ける者として支持する。ある 人が次のように言った。『私たちは彼 らをそのように支持する必要はどこに も見いだせない。だから私たちが挙手 をする場合, それは彼らを予言者, 聖 見者, 啓示を受ける者として認めたこ とにはならない。』 これはある程度ま で正しいと言える。しかし、私たちが 通常の方法で幹部を支持するというこ とは,神に対して,また死すべき肉体を 持つ幹部へ幕のかなたから働きかける 軍勢に対して、私たちの心を明らかに することにほかならない。 すなわち, より大きな力を持つ天の軍勢が、幹部 としての任にある兄弟たちを、神のみ こころを伝えるに足る者と判断して与 えた啓示については, いかなるもので あろうとも喜んで受け入れるというと とである。私たちには聖書、モルモン 経、教義と聖約などを通してもたらさ

れた数々の原則と教義がある。私たち はそれらに精通すべきである。と同時 に、この教会にあって私たちを管理す る人々をもいただいている。そして必 要が生じたときには、私たち自身を導 くことは言うに及ばず、教会全体の前 進のためにも, その人々を通して私た ちに主のみ言葉がもたらされるのであ る。従って手を天に向けて挙げ支持表 明するとき,私たちは,いついかなる ときでも主のみ言葉を受ける用意がで きているということを証明することに なるのである。この教会にあって私た ちを管理する人々こそ正当に認められ た経路にあたる人々であり、ひとつの 組織体として私たちのために主からみ 言葉を受けるように召された人々なの である。すなわち私たちは、このよう に天に向かって挙手をするとき, 神と 天使に対して, もしも主が啓示の言葉 をもって私たちにみこころを伝えられ るならば, 私たちには時を選ばずそれ を受ける用意ができていることを示す ことになる。それがどのような方法で もたらされようと, 聖霊の導きによる ものであろうとなかろうと, はたまた もし主がウリムとトミムを教会に回復 することが適当だとされるのであれ ば、そのウリムとトミムを通して、と にかくすべてに対して受ける備えがで きているということを明らかにするこ となのである……。私たちはこのよう にして, 主のみ言葉を, 霊感を通して ウリムとトミムにより, また天使の導 きと恵みを通し, その他主が取られる あらゆる方法を通して受けるというと とを, 挙手により証明する。そしてそ うすることは適切なことである。」 (「説教集」第21巻, P.47)



※レオン・R・ハートショーン編「逸話集,近代の使徒の生涯より」 (Exceptional Stories From the Lives of Our Apostles) ソルトレークシティー,デゼレト出版社,1973年,許可を得て転載。

アンソン·H·ランド副管長

略歴

アンソン・H・ランドは1844年5月14日, デンマークのアールブルグで誕生。父は軍 人,母は若くして亡くなり,アンソンは祖 母に育てられた。

祖母が1853年に,アンソンは1856年 5月 15日にパプテスマを受ける。1862年,デンマークから ユタへ 移住。合衆国への航海中,船医に任ぜられる。71日間にわたる旅を終え,1862年 9 月23日,ソルトレークに到着。

1870年、監督の令嬢サラ・アン・ピーターセンと結婚。9人の子供はそれぞれに非常な成功を収める。アンソンは教会や地域社会のみならず、家庭においても深く愛され、尊敬された。

1874年、ユタ中部のサンペテで高等評議 員を務める。1877年にはステーキ部書記も 兼任。1878年にはさらに日曜学校管理会長 となる。

彼は伝道部長として故国デンマークへ渡った。2年3カ月の後ユタへ帰ると,準州議会議員に2選される。また職に在任中は,ユタ州立農業大学の設置に貢献した。

1888年、ウェルズ神殿長のもとでマンタイ神殿の副神殿長となる。1889年使徒となり、1891年、マンタイ神殿長となる。

1893年から1899年まで、ヨーロッパ伝道 部を管理する。

1897年, F・F・ヒンツェと共に東洋を 訪れ, トルコ伝道部を再開。



1899年,教会歴史記録者となる。1919年まで日曜学校管理会長を務める。1910年,ジョセフ・F・スミス大管長の第二副管長に支持される。ヒーバー・ \mathbf{J} ・グラント大管長の第一副管長としても働く。

1911年,ソルトレーク神殿の神殿長代理となる。1918年,ソルトレーク神殿神殿長に任命される。

1921年3月2日, ソルトレークシティーで死去。

「聖書が読めるんだ, なんてすばらしい 日だろう」

アンソン・H・ランドはわずか 4 歳 で私立学校に入れられ, 読み書き算術 などの初歩を修得し、7歳になるとア ールブルグ市の公立学校に入学した。 その勉強ぶりと才能は、2学年を飛び 越えて進級したことに歴然としてい る。また,学校の教科課程卒業の準備 の時期に, 英語の個人教授を受け, ド イツ語やフランス語も勉強していた。 11歳の時には学校の首席になった。ラ ンド兄弟は幼ない頃から,神のみ言葉 を学びたいという望みを持っていた。 祖母の家には叔父所有の聖書があった が,大事な本を汚したり傷つけたりし てはと、さわるのを叔父に禁じられて いた。しかし祖母から、読書するとき は途中でやめず読み通すように言われ ていたので、アンソンはその言葉に勇 気をふるって、初めはまったくの白紙 から、やがてその神聖な書物の中の主 な出来事を覚えてしまうほどになっ

た。四旬節のある日、人々が町に群ら がって祭りの行列を見物していると き、アンソンは「聖書が読めるんだ、な んてすばらしい日だろう!」と考えた。 叔父は群集にまじって祭り見物に違い ない。アンソンはお気に入りの場所に 腰を落ち着け、聖書を開いて、王政イ スラエルの歴史をわくわくしながら読 み出した。すると階段に音がして戸が あき、アンソンの前に叔父が立ちはだ かった。アンソンは黙って聖書を取っ たことを、叔父にあやまった。叔父は 返事をした。「いやあ,うれしいぞ。 こんな日に頑張っとるんだ。好きなだ け読むんだな。」 叔父は、わずか8歳 のアンソンが,かなりの量を読み,意 味もしっかりつかんでいることに驚い た。ランド兄弟は、幼ない頃に読んだ せいで、聖書の話の筋が頭にはっきり 刻まれ、非常に役立ったと語ってい る。

「ランド兄弟は 13歳で……」

ランド兄弟は13歳で、ぶどう園の仕事に召された。その召しとは、移住する聖徒たちに英語を教え、チラシを配って、長老たちが集会を持てるように手伝う仕事だった。彼が大会で初めて報告したときには、フィヨルツェッド兄弟が彼をテーブルの上にあげ、会衆に顔見せをしたのだった。

ランド兄弟はいつもチラシといっしょに「ミレニアル・スター」紙を何部か持っていて、デンマーク語の新聞を読むようにすらすらと翻訳しては、聖徒たちに読んで聞かせていた。聖徒たちは喜んで聴き、信仰を強められた。

「ミレニアル・スターに」連載された 「質疑応答」は、聖職者たちとの論戦 に大いに役立った。彼らはアメリカや イギリスに流布したと同じような「モ ルモン」についてのうそ偽りを、デンマーク語でも流していたのだった。ランド兄弟が初めて派遣されたとき、ある人々は、「モルモン」はあんなに入っな子を使うほど血迷っていると考えた。そしてそのような話が、ある「大えた。そしてそのようなだちにならまる、大です。その通りになった。と言い、その通りになった。というのはそれから少しして、彼をまるではといた男がバプテスマを受けたいと言い出し、ランド兄弟に儀式を執行してほしいと望んだのである。

「火ばさみをひっつかむと, 金切り声をあげながら」

ランド兄弟が妨害されることはめったになかった。ほかの長老たちが迫害される場にいても,彼は仲良くやっていた。しかし時々はにがい経験をなめた。ある晩,町で集会に人々を誘っていて,一軒の家に行き,出て来た婦人にその夜集会があることを説明し,出席を勧めた時のこと。

「どんな集会なの?」と婦人は尋ねた。

「モルモンの集会です」と答えた。 すると婦人の顔付きがさっと変わり,猛烈なけんまくで怒り出した。彼 女は火ばさみをひっつかむと,金切り 声をあげながら「お前にモルモンの集 会を見せてやるわ!」と飛びかかって きた。

彼は逃げるが勝ちとばかりに逃げ出したが、婦人は追いかけながらかん高い声で夫を呼び、あの「モルモン」を撃って!と叫んだ。この大騒動に驚いて、隣り近所の人が何事かとかけつけた。

その後数年して、ランド兄弟がユタ のエフライム生協の管理をしていると き、ひとりの淑女が店に入ってきて彼 に言った。「御存知ではないでしょう ね。でも私はあなたにお会いしたこと があります。火ばさみを持って追いか けた人のこと、思い出しませんか。」

「ああ,覚えています。」 ランド兄 弟は言った。「しかしあなたとは違い ます。決して忘れられない顔でしたか ら。」

「はい,違います。でも」と婦人は続けた。「私は彼女の隣りのうちに住んでいました。あなたを追いかけた様子を見ていて,どうしたのかと聞いたんです。そしたら『モルモン』の集会に誘われたということで,私は何だか『モルモン』のことが知りたくなり,その集会に出かけました。あなたのお話をうかがって,真理だと確信したんです。」

「君を跡取りにしよう」

町でチラシ配りをしていたある日, 大きな製粉会社の社長宅を訪れた。ちょうど書斎でひとりの紳士と話をしていたところだった。1時間ほど尋ねられたことに答えていると,家の主人が,「モルモンだというのは実にまずい。コペンハーゲン大学で神学を勉強してルーテル教会の牧師になるなら,君の学資は出すし,跡取りにもしよう」と言った。

ランド兄弟は答えた。「あなたは確かにお金持です。でもいくらお金を積んでも、神の教会への忠誠は買収できません。」 その答えはふたりの紳士を喜ばせたようだった。それで、ランド兄弟は彼が本気でそう言ったかどうかを疑った。その時はまじめだったと思ったのだが、ランド兄弟にとっては誘惑の数に入らない質問だった。自分は高価な真珠を見つけたと感じていたのだ。

彼の伝道中の経験は、多彩で興味深

い。あるとき彼は、ある場所へ集会の 手助けに行く約束をした。彼は激しい 雪嵐の中を16キロも歩いて、そこに到 着した。着いた時には家が人で埋まっ ていて、まだ長老たちは来ていなかっ た。彼が人々に混じって腰をかける と,「きょうは『モルモン』にいっ ぱい食わされたぞ」という声が聞こえ た。時刻は来ているのに自分のほかに はだれも来そうにないのを見てとる と, ランド兄弟は立ち上がり, 話を聞 いてくれるようにと,穏やかに頼んだ。 人々はいかに驚いて少年を見つめたこ とか。しかし会衆は、針が落ちても聞 こえるほど, しーんと静まりかえった。 集会が終わると、だれもがランド兄弟 のところへ行き, 握手をして感謝を述 べた。その場の何人かはそれから教会 に加わり、シオンに移住した。

「一行の医師に」

ランド兄弟は16歳で長老に 聖任され,アールブルグ支部の支部長および他の5支部の巡回長老に任命された。それは当時,実に責任ある役職で,支部は大きく,常に心くばりを必要とした。

ランド長老は 1862 年 まで 伝道を続け、その年に18歳でユタに移住した。

ベンジャミン・フランクリン号で,ドイ ツのハンブルグを発ったのだが、船が まだ港に停泊中、ハシカが船内にはや り出し、子供の間で猛威をふるった。 船に医師はおらず、 船長が 船外の 医 師と連絡して病人に薬とぶどう酒を与 えるだけだった。C·A·マドセン監督 はそのことを聖徒たちに発表し、投票 でランド兄弟が一行の医師に指名され た。薬箱と病気一般の治療法を書いた 本が彼に手渡された。ランド兄弟は本 をよく勉強し,務めを立派に果たして, 乗組員や船客の信頼を集めた。いつも 引っぱりだこで、時々は足りない休息 と睡眠を取り戻すのに、 どこかに隠れ なければならないありさまだった。医 師が能力ではなく投票で免状を受けた のはかなり異例なことだった。

「アンソン·H·ランドの名」

きょう私*は、アンソン・H・ランド副管長がこれまで尽くしてこられたすばらしい貢献を哀心からほめたたえる次第であります。故人と私との友交は、この世の人間にとって最大限の親密を極めたものであったと信じて疑いません。ランド副管長はウィルフォード・ウッドラフ、ジョージ・Q・キャ

ノン、ジョセフ・F・スミスの諸氏が 大管長会に支持された当時、十二使徒 評議員会に入ってこられました。残り の9人の使徒と使徒補助のダニエル・ H・ウェルズ長老が、大管長会に選出 されて空席になった3人の後任を,紙 片に書いて大管長会に提出するように 言われたとき, 互いに何の相談もなか ったというのに10人が10人とも,アン ソン・H・ランドの名をあげたのでし た。その日から今日まで、ランド長者 の公私にわたる仕事上, 一個の末日聖 徒として、また召された主イエス・キ リストの弟子, 使徒として, いささか でもふさわしくない言動はひとつたり とも見られませんでした。私が日本滞 在中にロレンゾ・スノー大管長が逝去 しましたが, その時私は同僚たちに言 ったものです。「もし仮りにジョセフ ・F・スミス大管長が副管長に、最も 賢明で博識で分別のある人を選ぶとし て、最も豊富な知識とすばらしい記憶 力を持った, 副管長に選ばれそうな十 二使徒はだれかといえば、アンソン・ H・ランドだと思う」と。ランド兄弟 が選ばれたという知らせを受け取って 私が喜んだことは言うまでもありませ

※ ランド副管長の葬儀にあたって、末日聖徒 イエス・キリスト教会第七代大管長ヒーバー・J・グラントの追悼の辞



私たちを取り巻く世界は、この世で 起こることはいずれもみな大体同じで あるという気軽な考えで固められてい る。私たちはみなこのような世界で育 ってきた。今日地上で作用している諸 々の力は,同じ調子,強度で、さらに 同じ結果を生みながら, 過去のいかな る時代にも作用したし、今後も永久に 作用していくから, 未来に待ち受けて いるものは、過去にあったこととほぼ 同じであるというのである。次のよう な世界、すなわち、進化の過程が、わ き道にそれず, 信頼できる道を, 確実 に, 目に見えない速度でおだやかに進 むように, しかも十分将来の姿を予測 し得るのとちょうど同じように, 科学 のよく行き届いた目に見守られ, すべ てが制御された世界というものがあれ ば、そこには驚きの原因となるものは 何もないであろう。

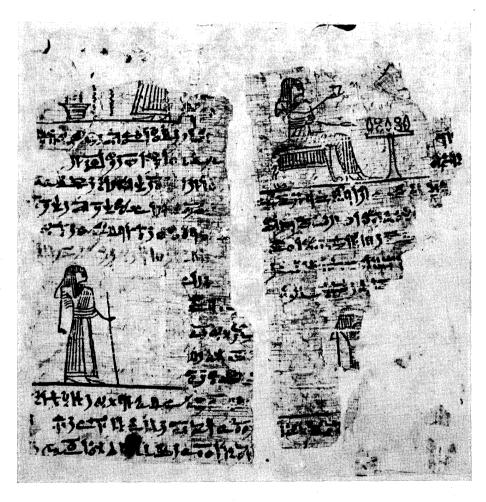
そのような世界では,人は神に頼って慰安を求める必要はないように思われる。実際的で,迷信を排除する科学の手法は,すべての幼稚な恐怖を消滅させてしまった。過去における劇的な説明のつかない事件,そして未来に起こると予言されている,同様に不思議な解釈不能の事柄は,現在神話とか幻想とか呼ばれている。

ところが、どく最近の科学者の声は 驚きに満ちている。彼らが今日の情勢 を予測したのは遠い昔ではなくつい最 近のことであった。ところが、その予 測とは裏はらに、現在目撃しているこ とはこれまで目にしてきたことと全く 異なっているのである。彼らは今、全 然期待してなかった、考えの中に入っ ていなかったものを見ている。¹

ジョセフ・スミスも,予言者として 過去と未来を見,その双方の世界像を 携えて登場した。するとそれに接した 当時のひとりよがりな悦に入っていた 人々は激しく動揺し,激怒したのであ った。ジョセフ・スミスは,独自の過 去の姿を,最も大胆な方法で,言い換 えれば,古代に起源を発し「みたまに

文字の起源

ヒュー・ニブレー



よって」内容を示された数冊の書物の 形で提示したのであった。しかし,彼 が述べた過去と未来の姿は,決して神 秘的な形で伝えられたのではなかっ た。…ジョセフ・スミスが語った物語 は,書物の中に,すなわち現在に至る まで存在すると考えられている,ある いはその存在の違うかたなき痕跡を後 世に残している古代の書物の中に記さ れているのである。

「ジョセフ・フィールディング・スミ

ス大管長は、次のように書いている。 「末日聖徒は、福音の回復によって主 のみ言葉が明らかにされているので、 二重の意味で祝福されている。私たちには、……ニーファイ人とジェレド人 の記録が与えられている。主ははじめにアダム、エノク、アブラハムに啓示された多くのことを回復したもうた。 ……教会員が記録に書かれていることを読み、勉強し、学ぶ特権を利用しないときには、責められるのである。」²

四个一个 3 一个是是 医月十二人 第二十年至三年四十十年

ジョセフ・スミスの時代には, 古代 の写本は全く知られていなかった。こ のことに気づいている人は、あまりい ない。エジプトの文字もバビロニャの 文字も, 判読できていなかった。 最も 古い文書は、ギリシャ語の古典とラテ ン語の古典で, しかもビザンチン時代 以降の中世の不良な写本であった。最 古のヘブル語の聖書は、9世紀に書か れたベン・ アシェル の コーデックス (折った紙葉を重ねて折り目をつづっ た形。今日の書物の装丁に似ている。 〔訳者注〕)であった。ところが、今日4 千年以上も前の文書が非常に数多く現 われている。しかも、ただ内容だけで なく, 実際に書いた時代が文明の黎明 に届くものである。5千年の塵も簡単 に払いのけることができる。同じよう に、6千年前の遺跡も簡単に発堀する ことができる。発掘したときには、ど んな文書が出てくるのだろうか。3つ の主要な点について考察してみよう。 (1)人類の最古の記録について、ジョセ フ・スミスが述べた言葉からどんなこ とが推論できるだろうか。(2)古代の人 々は、これらの記録について何と言っ ているだろうか。(3)記録の現状から何 がわかるだろうか。

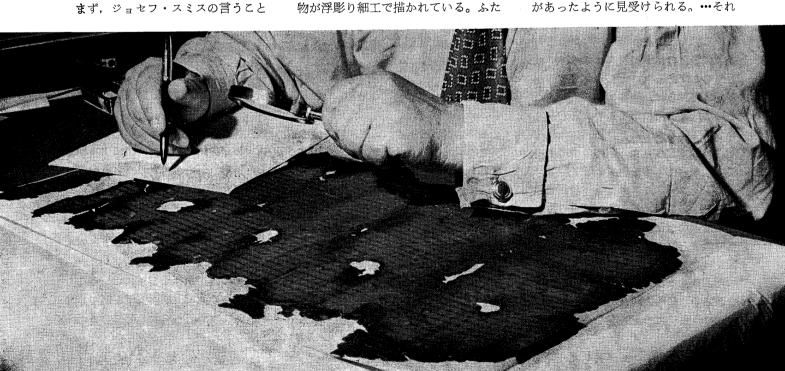
が正しければ, 記録は人類の歴史が始 まると同時に書かれたことになる。な ぜなら, ジョセフ・スミスは, 「ここ に一部の覚えの書誌さる, その中に誌 すところは,アダムの言葉にてなり」 (モーセ6:5)と言っているからで ある。3 では古代の人はこのことにつ いて何と言っているだろうか。意外な ことに, 非常に多くのことを述べてい る。ここではほんの数例しか引用する ことができない。古代の人の言うとこ ろによれば, ある王は神聖な書物に接 することができ、世界の創造のときに はこの書物をひもといたという。最も 初期のあるパロは、こう言っている。

たどんなものをもたらしたかを告げて いる神の書の書記である。」4 それより 後期に属するが、それでも古代(第13 王朝) のパロは, こう回顧している。 「私の心は、アトゥムの最古の書物を 見たいと慕いこがれている。その書を 開けて、すみからすみまで一心に調べ, 祥を実際のあるがままに知りたい。」⁵ エドフの偉大な視殿にある古代の図書 館を見れば、そのまぐさ(入口の上の 構木)には、地に下ってくる天の書を 賛美してひざまずいているふたりの人

「私は、何が存在し、もともとなかっ

りの頭上に書かれた象形文字は、ふた りがサイとフウ6であることを示して いる。これは、世界を創造した神の声 (言葉) である。 エジプトでは, 新 しい神殿の基礎を築くとき, 天上の書 に書かれた指示に従わなければならな かった。というのは、基礎を築くとい うことは、地球の創造を象徴し、劇化 したものにほかならなかったからであ

では次に, 古文書の実際の状態は, 何 を示しているだろうか。すべての事物 は徐々に、ゆっくり現在の姿をとるよ うになってきたと考えられているが、 もし文字もそうであったとするなら、 人類が書くことを覚えようとたどたど しく歩んだ足跡が,膨大な暈の遺跡は どこにも見当たらない。事実、書くと いうことの本質には,遅く徐々に一歩 ずつ進む進化の過程は存在しなかった のである。どのような過程を経たのか 理解できようとできまいと, ひとたび このことがわかれば, 文字の神秘の全 貌が明らかになる。すべての証拠が、 実際そのとおりであったことを示して いる。「突如として、…王朝以前の墓 に、文字が現われるのである。…しか もその背後にかなり長い, 進歩の期間 があったように見受けられる。・・・それ



は,絵文字の段階をはるかに越えた文字である。…」 エンゲルバッハはこう 書いている。 9

ここでエンゲルバッハが言っている,長期にわたる進歩の過程も,原始的な絵文字の存在も推論である。なぜなら,そのいずれを証明する証拠もないからである。もし文字がエジプトで進化したとしたなら,カパートによればその過程は,「ほんの数十年で」,その後文字を書く技術は「何千年も」変わらずそのまま残っていたことになる。10

ひとつの民がほとんど一夜にしてあ る文字体系を作りあげ、その後何の進 歩も見せないこの進化過程は、少し奇 異に感じられる。もっと不思議なこと には, 非常に有名な王朝前の粘土のパ レットに、文字の極めて初歩的な段階 を暗示する不明瞭な痕跡があるが、同 時に, エジプトの書記が使う古風なイ ンキつぼをふたつ携えた従者 のあと を, 王(ナルメル)が歩いている姿がは っきり描かれているのである。エジプ トの第一王朝の墓は、「発達した文語を 持ち、パピルスを準備する知識を持ち 合わせていたことを示している…。」11 第一王朝時代のつぼについている札や ラベルに刻んだ文字は,ぞんざいで簡 単なため、原始的な文字であると解釈 されることが多い。しかし、これらの 文字がぞんざいで簡単なのは、つぼに 番号をふるほどの意味しかなかったた めであり、それ以上のつもりもなく、 決して文学的な作品を記したものでは なかったからである。しかし実際には S・ショットが指摘するように、「複 雑な草書で書かれていた。¹² それは, 象形文字が約紀元前3千年に突然エジ プトの発明として,世界に登場するけ れども、「同じ象形文字の続け書き文 字である草書体文字も, 同じくらい古 くから」使われていたことから説明が つく。13

以上の事実はいずれも、エジプトの 文字が進化したという、頑固に支持さ れている学説にまっこうから対立する ものである。しかし、そのほかの世界ではどうだろうか。どこを見ても最古の文字は、エジプト語と何らかの関係があって、同様に突然出現しており、 実体は謎を秘めている。

フランクフォートは次のように書い ている。「(エジプトの) 第一王朝の 初めに、何の前ぶれもなく現われた文 字は、決して原始的なものではなかっ た。事実,この文字は,…メソポタミア で完成の域に到達していたのと全く同 じ……完全な構造を持っていた。…エ ジプトとメソポタミアの文字体系の間 に何の関係もなかったと言うことは, エジプトがメソポタミアから美術、建 築術の面で影響を受けたその瞬間に、 全く独自に複雑な、非常に首尾一貫し たひとつの体系を発明したというのに 等しい。メソポタミアではすでに全く 同様の体系ができあがっていたのだっ た。…」14 このふたつの体系は、相互の 間に関係があるだけでなく、ヒッタイ ト,初期のインド15,エラムの文字16 はもちろん、初期の中国の文字17とも 深い関係がある。P・モーデルによれ ば,ヘブル語のアルファベットは,エ ジプトの線書き文字体系と関係がある という。この文字は、モーデルの言葉 を借りれば、「まだ象形文字が知られ ていない頃発達し、その後不思議な生 命力をもって存続し、決して吸収され てしまうことも, 捨て去られてしまう こともなかった¹⁸」 本当のアルファベ ットであった。これが、象形文字より も古く19, 紀元前2千年に突然近東全 体に広まったと言われている不思議な 先史時代の「地中海の」アルファベッ トである。

アルファベットは,奇跡中の奇跡であり,あらゆる発明の中でも最大の発明であると,多くの学者が指摘している。また,アルファベットは,一時にある所で発明されたとしか考えられない,しかもひとりの人が発明したにちがいないという点で,意見が一致している。さらにエジプトあるいは西部を

ム民族の中で発生したという説でも意 見の一致をみている。

進化の仮説に続いて,他の著名な学 者は、原始人が稚拙な絵を描いて単純 な考えを記録した過程を取りあげて説 明している。彼らの学説によれば,人 は全地で遅々とした、しかし確実な進 歩の道をたどって, ついには絵からア ルファベット文字に到達したことにな る。しかし、本当にそのとおりのこと が起こっていたのなら、文字の進化の 痕跡が、いたるところに発見されてし かるべきである。人が何千年もかかっ てアルファベットを発明するにいたる まで、たどたどしい進歩の道をたどっ たことが、数多くのひっかききずを残 した骨や岩でわかることだろう。しか し, 書こうとする試みを示すおびただ しい遺物は、全く存在しない。一部の 学者が掲げている,文字は進化したと いう学説を支持する証拠は、全く存在 しない。

アルファベットは絵文字から進化したと信じている人でさえ、次のことを認めている。すなわち、「この進化の最終段階は、世界のほんの数箇所で達成された。文字の体系はごくわずかしかなく、その起源は、時・所とも非常に近接しているので、お互いに独立して発達したことを証明するのは全く困難である。」

人々はこれまでいつも絵を描いてきた。しかし、絵文字の起源はどうだろうか。一体本当に絵文字というものが存在したのだろうか。 E・ドーベル古いでは、「信じられない見ても正確な力をは、およそ誰が見ても連続できない像の連続である」²⁰と定義している。「純粋な」をできる」²¹ということに、K・ゼーテは同意するだろう。この問題はことができる」²¹ということに、K・ゼーテは同意するだろう。この問題はことができる。もし本当だだったとしても、それはまだ発見されていない。ひとつの絵で、言語、教育、文化の相違にかかわりなく、見

るすべての人に同じ意味を伝えるようなものが、一体存在するだろうか。ゼーテは象形文字の進化した過程を説明しようとして、本当の絵文字を捜してめたが、彼が全世界で発見できた唯一の例は、北アフリカインディアンの岩石彫刻だけであった。しかも、でで記れを今日まで「読む」ことのでで記れるへいない22。エジプトで非常に原始的な「絵文字」が書かれていたのとちょうど同じ時期に、エジプト人は純粋なアルファベットも使っていたことに注目すべきる。

最古のエジプトの文書と同じよう に,「これまでに知られているものの うちで、最も古い記号」を記したバビ ロニアの書き板も, 高度に様式化され, 抽象的で、解読できていない23。 仮に 譲ってそれが絵文字だとしても、なぜ 同じように「読む」学者がふたりとい ないのだろうか。現時点では、メソポ タミアが, 文字の進化の順序を示す唯 一の可能性を秘めている。発堀によっ て進化の様々な過程が示されるからで ある。しかし、発掘の結果は、求める 仮説を証明してくれなかった。逆に科 学的に発堀された書き物の遺物は,期 待された型を論ばくする始末である。 というのは、後期(上層)の地層に最 も原始的な絵が現われたり、その他都 合の悪いことが明らかになっているか らである。

文字という高度で複雑な技術が、完全に発達した形で、しかも全く突然思したという背理的な現まは、進化論的な考えにまっこうから、人類学者たちは、大類として「道具の理論」を強して、道具の理論」をは、原始的な人間に似た動物が、全く、原始的な人間に似た動物が、全く、用意に、偶然その辺にある木か、骨、岩かをまぐれ当たりに道具として単純なもなま、「このような極めて単純な自具が首尾よく功を奏し、人類の進化全体の流れを起こし、今日の文明に導い

た」24 というものである。

しかし、ペストリーはその画期的な論文の中で、人類は新たに外部から一段すぐれた道具が紹介された、それを熱心に採用するかと言えば、その逆で、外部からもたらされた道具に対しては、「ほとんど 100 パーセント拒絶反応」を示すことを指摘している。25 例えば、エジプトに隣接する国々は、皆エジプトのすぐれた斧を何千年もの間知っていたが、それを取り上げた唯一の国はこともあろうに、南アメリカの原住民だけであった。26

では、ある民族に他の民族から文字 を採用するように促すものは、一体何 なのだろうか。ここで興味ある事実は, どの民族も考え方はいち早く吸収する が,必ず完全に自分の所有物と化して, 初めのものから独自の型のものを考案 し、他のいずれの文字とも異なるもの を持つに至ることである。古代の文字 の普及度も多様性も、宗教を抜きにし ては説明できない。新しい種類の文字 は必ず、新しい宗教の道具として出現 している, とA・フォン・ムリネンは 述べている。 27 また \mathbf{J} ・スモリアンは, 人類の最も偉大な発明や発見は皆、人 類を霊の世界と交通させることを第一 の目的としていたようであると指摘し ている。²⁸ ジョセフ・スミスの 言うこ とが正しければ、書物も文字も天から 人に与えられた賜である。「そは霊感 の『みたま』によりて書き誌すために、 神を呼び求めたる者にみな与えられた ればなり。」(モーセ6:5)文字を書 く技術は、義人が神の訪れや神との交 通の記憶をとどめることができるよう にし, 地上の活動を天上の秩序にかな ったものにするよう助ける特別な賜で あり、大きな祝福であった。ジョセフ スミスはこう言っている。「神のみ こころが, そのまま聖典に記されてい

人類の最古の記録は,「古代の人が 天から与えられた賜と考えていた,字 を書くことの奇跡について」³⁰多くの ことを語っている。エジプト人は,文字は「大祭司であり書記」である王に託された神聖な信託であって,王とその民が絶えず天の心と意志に接していられるようにするものである,と信じていた。31

このようにして、神殿の基の書は、第三王朝のゾクサー王の大臣兼顧問をしていた不滅の天才、しかもあらゆる時代を通じて最大の建設者であったインホテップに天から送られ、後に「神々が地から去ったときに、天に取り上げられたが、再び後でインホテップによって送り返され、天からメンフィスの北に落ちた」32 と考えられていた。

バビロニアでは、「主は遣わされた 者であった。運命を記した平板を受け 取り、委任を受けるため、……天に昇 っていった。それから王は送り出され た。言いかえれば、再び降ってきた。 …このようにして、知識が王に伝達さ れたのであった。この知識は、天地の 偉大な神秘、隠された事柄に関する神 秘的なもので,神々(神)から与えら れた隠された知識のひとつの啓示であ った。これを『本原的な啓示』と呼ぶ ことができるだろうか。」33本原的な啓 示という概念は、世の初めから終りに 至る完全な知識がすでに書き記されて いて、時々選ばれた霊に託されるとい うもので, これは末日聖徒にはよく知 られた教義である。34 文字の起源は天 にあるとする考えは、古代において文 字と記号は星の散りばめられた天から きたという教えの形で絶えず出てく る。すべての知識を包含し、すべての 権能を与える,運命を記した平板は,

「世界を予知するものであり,星々と 星座であった。」⁸⁵

古代の教義から実際に発見されたものに目を転じると、最古の文書は必ず神殿で見つかっていることがすぐわかる。神殿建築と文書が突然一緒に出現することは、決して偶然ではない。神殿は、宇宙との関係を確かめる天文台であった。36 そこで 天界を注意深く観

測し、その観測を生かすために記録したのであった。アルファベット、カレンダー、神殿の3つが平行して出現したことは自然である。いずれも星や惑星から読み取れるメッセージを処理するためにできたものである。

最初から最後まで, 古代の文書は祭 司の手中に留められていた。神聖な, 秘密の事柄は,選ばれた,はっきり他 の人々から隔離された者に与えられ た。典型的な聖なる書には,次のよう に書かれていた。「この内容を漏らす 者は,突然の死に到れ,直ちに切り捨 てられるであろう。あなたは、この書 から遠く離れていなければならない。 この書は, 生命の家に正しく登録され た書記だけが、作業場で読むことがで きるのである。」87 「予言者だけが聖な る書を読み、理解できる」38 のが常で あった。どの文字体系もそれ自体が、 聖なる書物の立派なシールの役目を果 たしていた。すなわち、「風俗の民が 知らない秘密の方式」39であり、 暗号 文だったのである。権勢と祭司の職の 源は、「コプトスの海のまっただ中に ある。その中に鉄の箱があり、さらに その中にケート材の箱が納められてい る。なおその中の箱に金の箱があり、 そこに **聖なる書**が収められている」⁴0 のであった。

既知の書物で最古のものと考えられ ているいわゆるシャバコスストーンに は,一般の予想を裏切って,全く原始 的な意味をなさないものが書かれてい るのではなく, 奇しくも末日聖徒にな じみのある物語が書かれている。その 中味は, エジプトの第一王朝創設を祝 って神殿で演じられる。儀式演劇の本 文である。そこには,天上の会議,世 界の創造,人類の堕落,および人類が 復活し、第一の栄光に復帰できるため の方法が記されている。毛皮の巻き物 に書かれた書物は、最初のパロ、メネ スのときに神どの壁に隠され、後の王 シャバコによって発見された。シャバ コは, 自分の(第25)王朝を築くに当

たって,同じ文に従って儀式を行なっ たのであった。⁴¹ (次号に続く)

- ジョン・リアーは、「サタデー・レビュー」 1970年1月10日号、〔英文〕P.99で、人口 問題と公害問題に触れ、こう述べている。
- 2. ジョセフ・フィールディング・スミス「福音の質疑応答」, (1972—73年度メルケゼデ ク神権用テキスト) P.4
- 3. 初期のユダヤ人の外典は、アダムと書く技術の間に密接な関係があったことを示している。これはこのような限られた紙面ではとても載せられるものではない。「シビルの神託」は、すべての物はまず初めに文字から創造されたという。よく知られたユダヤ人の教義、すなわち「ヤシャルの書」の主題に触れながら、111:24 では、アダムを「四つの文字のアダム」と呼んでいる。
- 4. R・O・フォークナー, 「古代エジプトの ピラミッド・テキスト」(オックスフォー ド, 1969年), 510:1146
- 5. このアトゥムはアダムであるという説が、 第一流のエジプト学者によって提唱されて いる。例えば、E・レフェビュアは「聖書 考古学協会会報」9:174以下で、A・モレ は「オリエント史」(パリ、大学刊行部、 1945年)1:209以下でそれぞれその説を述
- 6. 古代エジプト語は、子音だけで書かれた。 母音はあったが、書きとめられなかった。 従って、今日使われている子音しかわから ない。
- 7. **J・**カパート, エジプト年代記, 「本の昇 栄」41 (1946年) P.25
- 8. 下記の注
- 9. W·エンゲルバッハ,「公務記録」(Annales du Seruice), 42 (1942年), P.197
- 10. J・カパート, 「エジプトの宗教と東方」, 1 (1930年), P.117
- W・B・エメリー、「科学的なアメリカ人」 (Scientific American), 197 (1957年)
 P. 112
- 12. K・ゼーテ,「絵から文字へ」「歴史と考 古学の研究」12巻より。ヒルデシャイム: G・オルムス、1946年、P.27、28
- A・シャルフ、A・モールトガト、「古代 エジプトおよび古代近東」 (ミュンヘン、 F・ブルックマン、1951年) P.46
- 14. フランクフォート, 「文明の誕生」(ロンドン, 1957年), P.46
- 15. B・フロズニ,「西アジア等の古代歴史」 (プラハ, アルティア, 発行年月日不明) P 116-7
- 16. **J**・ジョーダン, 「オリエント研究誌」6 (1930/1) P.318

- 17. A・デービッド,「オリエンタイニ誌」182 (1950年), P.51—54
- 18. P・モーデル, 「ユダヤ人の四半期レビュー」誌, 2 (1911/2), P.575
- 19. E・マスーラー、「エジプトの先史時代と 歴史時代」(パリ、民族学研究所、1950年) P. 323
- 20. E・ドーベルホーファ,「石の中の声」(ニューヨーク:バイキングプレス, 1961年)P.22
- 21. ゼーテ, 前掲書, P.24, 25
- 22. 同上, P.9
- 23. **H・J・**ランゼン,「考古学」, 17(1964年) P.125
- 24. S・ウォッシュバーン, 「科学的なアメリカ人」, 1960年9月, P.63
- 25. W・F・ペトリー, 「スミソニアンリポート」1918年, P.588
- 26. 同上, P.568, 569
- 27. A・フォン・ムリネン, 定期刊行物「ドイツ・パレスチナ協会」, 47, P.90, 88
- J・スモリアン,「ヌモン」誌, 10 (1963年), P.203, 例として火, 車輪, 四輪車, 建築, 船をあげている。
- 29. ジョセフ・F・スミス編「予言者ジョセフ・スミスの教え」(1947年) P.54 [英文]
- . 30. N・H・トゥール・ジーナイ, 「オリエン タイニ誌」, 17 (1949年), P.433
 - 31. ヘルメス・トリスメジスタス, I, P.406 一7, T・ホプトナー,「エジプト宗教概史」 (ボン, 1922-4), P.393
- 32. H・ブルーグシュ, 雑誌「エジプト」, 10 (1872年), PP.1—4
- 33. **G**・ウィデングレン, 「使徒の昇天と天上 の書」(ウプサラ大学, アースクニフト, 1950—7), P.51
- 34. 例, モーセ 7:67, ジョセフ・F・スミス 「福音の質疑応答」 P.5
- 35. A・エレミアス,「古代オリエントの光に 照らしてみた旧約聖書」(ライプチヒ, 1916年), P.51
- 36. 例,「ウェスタン・ポリティカル・クォータ リー」, 19 (1966年), P P.603-7, 4(1916 年), P.235
- 37. ソルト文書825 A, A・ガーディナー,「エジプト考古学誌」24:167
- 38. ヘリオドロス, エチオピア, 1. 28: H・ グラポウ,「象形文字」P.13
- 39. E・ドリオトン、「昼と夜の書」(カイロ、フランスオリエント考古学協会、1942年) P.86
- 40. **F・L・**グリフィス, 「メンフィスの大祭司 の石」(オクスフォード, 1900年), P.16
- 41. **K**・ゼーテ, 「古代エジプトの祭儀上演に使われた演劇の脚本」(ライプチヒ, 1928年), 1, 5, 8

A LE CALL MAN DE CALL MAN DE CALL MAN DE CALL TANK

問題解決の 鍵を見いだす

ロバート・亅・マシューズ

聖典は、人生のいろいろな問題を解決するにあたって、主 の助けを求めるように勧めている。

「汝須らく謙遜なれ, さらば主なる汝の神は手を取りて汝 を導き汝の祈りに応えん。」(教義と聖約112:10)

「求めよ,そうすれば,与えられるであろう。捜せ,そうすれば,見いだすであろう,門をたたけ,そうすれば,あけてもらえるであろう。すべて求める者は得,捜す者は見いだし,門をたたく者はあけてもらえるからである。」(マタイ7:7,8)

これら聖句の意味するところは今さら言うまでもないように思われるが、人生行路の様々な経験から、また他の聖句から判断すると、「求め、捜し、門をたたく」ことには、単に主にお願いをするだけのものでなく、もっと深い意味が含まれていると思われる。主はエレミヤを通して言われた。「あなたがたはわたしを尋ね求めて、わたしに会う。もしあなたがたが一心にわたしを尋ね求めるならば」。(エレミヤ29:13)このように、あらかじめよく探究し、熟慮して備えをすることが必要なのである。かつてオリバー・カウドリが、自分の望み通りに助けをいただけなかったときに、主は言われた。

「見よ,汝いまだ悟らず。汝はひたすらわれに願いし時は これを与えらるるならんと思えり。

されど見よ、われ汝に告ぐ、汝心の中によく思い計り、その後願うこともし正しからば汝願わざるべからず。願うこと正しからば,その時われ汝の心を内に燃やさん。これによりて汝にその正しきを感ぜしむ。

されどもし願うところ正しからずば、かかる感なくして汝の心は次第に鈍くなり、そはついに悪の悪たるを忘れしむるに至らん。……」(教義と聖約9:7-9)

この教えはアブラハムの子イサクに妻をめとるときに実践 されている。アブラハムはしもべに、ふさわしい女を見つけ て一緒に連れ帰る責任を与えた。そこでしもべは一第一条じ。主の助けを願った。

「彼は言った、『主人アブラハムの神、主よ、……わたしは泉のそばに立っています。町の人々の娘たちが水をくみに出てきたとき、娘に向って

「お願いです。あなたの水がめを傾けてわたしに飲ませてください」と言い,娘が答えて,「お飲みください。あなたのらくだにも飲ませましょう」と言ったなら,その者こそ,あなたがしもベイサクのために定められた者ということにしてください。わたしはこれによって,……を知りましょう』。

彼がまだ言い終らないうちに、……リベカが、水がめを肩に載せて出てきた。

……彼女が泉に降りて、水がめを満たし、上がってきた時、しもべは走り寄って、彼女に会って言った、『お願いです。 あなたの水がめの水を少し飲ませてください』。

すると彼女は『わが主よ,お飲みください』と言って,急 いで水がめを自分の手に取りおろして彼に飲ませた。

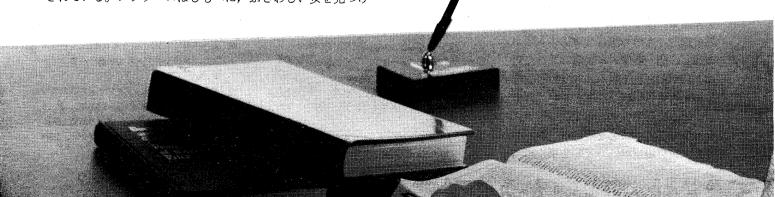
飲ませ終って、彼女は言った、『あなたのらくだも……まで、わたしは水をくみましょう』

……その間その人は主が彼の旅を祝福されるか、どうかを 知ろうと、黙って彼女を見つめていた。

……その人は頭を下げ,主を拝し」た。(創世24:12—21, 26)

ネヘミヤ総督は民の苦しみをなくそうと努力していたときに、こう言った。「わたしはみずから考えたすえ……」(ネ・ヘミヤ5:7)ネヘミヤはよく主に祈りを捧げる人であったが、これは、祈りの前に自分でよく考える習慣をもっていたことを物語っている。

行って岩から十六の小さな石を熔し出した。



Г...Ц~

その石は透明な……に澄んでいるものであった。……また主 に祈って,

……この石に主の指を触れて暗やみの中にて光を出す石と なしたまえ。さらば、そは……舟の中にて光を出し……」と 言ったのである。(イテル2:22,23;3:1-4)

この「まず自分自身で行なう」という原則は、主が末日に おいても勧めておられることである。

「見よ、われ汝らにすべての事を悉く命ずるは至当ならず。 ……われ誠に汝らに告ぐ、人は努めて善き業に従い、多くの事 をその自由意志によりて為し、多くの事を為し遂げよ。そは人 自らの中に自由の意志ありて……」(教義と聖約58:26-28) それにもかかわらず、レーマンとレミュエルはこの原則が

「さて私 (ニーファイ) は……兄弟たちに向い、その言い

よくわかっていないようであった。

争いのもとが何であるか聞かせてほしいと言った。

すると兄弟たちは『見よ、われらの父は……話をしたが、 その言葉は何のことだか解らない』と言った。

それで私はあなたがたは主に尋ねたかと言ったら.

兄弟たちは『主に尋ねてはいない。主はこんなことをわれ われに知らせないからである』と言った。」([ニーファイ15 : 6 - 9)

彼らには主に願い求めようとする信仰心がなく、また答え を得るまで努力することもなかった。ニーファイは言った。 「自分たちをつくりたもうた神のお計いを知らないから…」 (I ニーファイ 2:12, モーサヤ10:14も参照)

聖典が示すように、問題解決の鍵を見いだす効果的な方法 は,適切な手順をふめるように主の導きを願うと同時に,最 善の判断に基いて自分で解決を計り、それから実行すること である。

しかしそうは言うものの, あたかも白日の太陽のように, 問題解決の方法がいつも明らかに示されるとは限らない。こ れについてニーファイが次のように言っている。「私は何を せねばならぬのか、前以てそれを知らずに、ただひとすじに 「みたま」に導かれて行った。それでもたどり進んで……」 (I = -7 + 74 + 6, 7)

焦らなくても解決の道は次第に開けてくるのである。「汝 らいますべての事に堪うる能わず、さりながら心安かれ。わ れ汝らを導きて行けばなり。」(教義と聖約78:18)「……わ れ汝らがすべての事を受くるを得るや、これがすべて汝らの

み, ……何事も結局は好都合となるべし。」(教義と聖約90:



日々の恵み

福音に従い、主を愛する日々の経験は、一つ一つ末日聖徒の胸に刻まれている。これはだれもが持っている物語である。証を強くした経験、祈りが答えられたこと、愛する家族や友人の受けた霊感、教会の補助組織について、その経験を、他の教会員とわかちあおう。

自分の遺産を 誇りとして ロザリー・バーク

「奇しきみ業もて、神なしたもう」 讃美歌のこの歌詞は、ここ3年間私に とって特別な意味を持っていました。 私が末日聖徒イエス・キリスト教会の ことを知ったのが、ちょうど3年前な のです。そのときまで、私はモルモン が何なのか全然知りませんでした。宗 教には大して関心がなく, 改革ユダヤ 教の家で育ちながら自分の宗教につい てほとんど知りませんでした。曾祖父 母は正統派のユダヤ教徒でしたが、こ こ何年も家族はユダヤ教の風俗, 信仰 から遠ざかっていました。私はどこか に偉大な創造の力があるはずだと感じ ながらも,神の存在を疑うようになり ました。

神様は不思議なことをなさいます。 今私は、自分が米国で生まれたのはめ ぐりあわせではなく、天のお父さまが 計画して下さったのだとわかります。

1969年に、私の世界は音をたてて崩れ始めました。私は夫と離婚し、幼ない二児をかかえて、あてのない生活に足を踏み入れました。1年の間に事態

はますます悪化して, 私は人生という ものにいや気がさし、自分自身の存在 の意味をも疑い始めました。そんな時 です。私がモルモンの宣教師に会った のは。主は、私が謙遜になって助けを 求めるようになるまで待って、それか ら, その助けを送って下さったのでし た。私はすぐに、何かとても大事なこ とを聞いているのだと感じましたが、 ユダヤ人なので, イエス・キリストを メシャとして受け入れることに抵抗が ありました。でも, ジョセフ・スミス の証はしごくもっともらしく思えたの で、モルモン経を読み出しました。そ れから少しして、マーク・E・ピータ ーセン長老がボストンステーキ部を訪 問され,ファイアサイドでお話をうか がう機会がありました。その晩ピータ ーセン長老のお話のとき, 主のみたま が私の心を動かし, 自分はバプテスマ を受けるのだと悟ったのです。

それは当然家族中の問題になりました。家族が受けた初めのショックはやがて憎しみと怒りとあざけりに変わりました。私は子供たちを奪われる恐れを感じるようになりました。どんな目



に会ってもかまわない,でもそればかりはできません。今にしてみれば,神様が本当におられて,私を試されたのだと思います。もしこの教会が主の教会で主がバプテスマを受けるように望んでおられるなら,主を信頼すれば何事もきっとうまくいくに違いないと考えました。

導きを求めて祈り、弁護士に相談すると、子供を引き離すことはできないとはっきり言って下さいました。それから、私はかねて計画の通り、バプテスマを受けたのです。

その後2週間もたたないうちに,両親と和解ができました。そのときは子供にバプテスマを受けさせないようにと言われたのですが,昨年息子が8歳になって,バプテスマを受けて教会に入ったときには,両親も出席してくれました。

私はユダヤ人の伝統を拒んだことで 責められましたが、教会に入ってから は以前よりもユダヤ教のことをよく知って、私が受け継いできたものを誇り をもって子供たちに教えていくことが できるようになりました。今年の4月 の過越しの祭には、家族を招待して昔 ながらの、過越しの祝い膳を囲みました。両親の誇りと尊敬のまなざしから、 モルモンとしての私の新しい人生を喜 んでくれていると確信できたのです。

今は両親との間が昔よりも良くなっています。確かに神様は不思議なことをなさいます。つい先週、いとこの婚約パーティーの席で、母が居合わせた人たちにモルモンになった娘のことを話し、教会の良い点を教えているのを耳にしました。

では私は、主の教会の会員となって どんな良いものを見つけたでしょう か。それは本当の幸福というものの意 味、そして愛、友情、人生の本当の意 味,子供を育てる目標と方向です。

教会員になった最初の頃にとても助かったのは、スペシャルインタレストのグループでした。教会員として初めの1カ月ほど、バプテスマを受けて教会につながれてはいても、若い人たちや結婚している人たちのプログラムについて聞くと、疎外感を感じていました。やがて、私のもうひとつの祈りが答えられました。というのは、成人の独身者のための新しい組織ができると知らされたのです。

私は、スペシャルインタレストのグループが神様の霊感を受けて作られたと、証したいと思います。それによって活発でなかった教会員が活発になりました。非教会員がスペシャルインタレストのグループの愛と友情によって教会員になりました。友情から本当の愛が生まれたことも聞きました。

私は、この教会がまことの教会であると知っています。大勢のユダヤ人がまだ約束のメシヤを待ち望んでいます。またそれ以上に多くの人がその望みを捨てています。でも私はメシヤを見いだしました。私はイエス・キリストが約束のメシヤで、今もこの教会の頭として立っておいでになることを知っています。



帰ってきた 放**蕩**息子

ルイス・W・コトル

私は17歳のときまで、出るべき集会には全部出席し、神権の責任を果たし、活発に教会に集っていました。当然のことでした。教会や教会のプログラムが大好きだったのですから。

しかし、17の歳に「十代特有の独立 欲」に駆られ、家族の生き方に逆らっ て自分の「自由意志」を主張するよう になりました。親友のひとりが別の宗 教で、彼に言われるままアルコールや タバコのわなにはまっていったので す。私は教会員ではない少女たちとデ ートをし、すぐにすてきな少女を愛す るようになりました。彼女の両親が何 回も週末に海の別荘に私を招待してく れたので、むろんのこと、私は教会の 活動からは遠のいていきました。

そのうち第2次世界大戦がやってきました。監督に伝道に出たいと思いませんかと聞かれたとき、私は、それよりも軍に入って国のために働きたいと答えました。祖国のために働くことは大切だと思いますが、今考えてみると、まず伝道に出て天父のために働いた方が賢明だったと感じています。

またちょうどこの頃, 私の非常に尊敬していた教会員が教会の標準を破っていることを知りました。私の目から

見れば、彼らは偽善者でした。私はどうせ教会の標準を守らないなら、言うことと行ないが違う偽善者よりも、教会から離れた方がましだと心に誓ったのです。これがもうひとつの重大な間違いでした。私はその通り実行して、サタンの望み通りになったのです。

海軍パイロットとしての4年間とセ ールス業であちこちまわった15年間は 容易に不活発でいられましたが、その 間も、心に深く根ざした真理の教えは 信じていました。私が38歳になった年 に、末弟のトムが6週間ほど家に居候 をしました。トムが毎日曜日, 朝から 神権会やほかの集会にひとりで出かけ るので、私は良心の呵責を覚え始めま した。いい気持がしませんでした。何 かが悪いのだとわかっていましたが、 次第にその気持をひんぱんに感じるよ うになりました。昔ならこうと思えば いつでもタバコがやめられたのに, そ のときはそれができないのです。トム を会社に訪ねると, 知らず知らず教会 批判の言葉が出て、トムには言ったこ とがないのですが、あとでいつも罪の 意識を感じていました。

私は危機の坂を登りつめ、カントリークラブのカクテルダンスパーティーから帰った晩にそれが頂上に達しました。夜遅くベッドに入ったのですが、これまでになく寝つけないのです。ついに愛する妻を起こさないようにしてベッドから出ると、生まれて初めていろいろなことを考えながら部屋の中を歩きまわりました。そしてやがて、自分が変わらなくてはならないことを悟りました。

私は感情をむき出しにしたり、泣い たりしたことが一度もなかったのです が, そのときはひざまずいて, 19年に して初めて天父に助けを請うていたの でした。祈っていると、愛と憐れみと 幸福感が圧倒せんばかりに体中を満た し, 聖霊が力強く迫って, 私はかなり の間激しくすすり泣いていました。や がて立ち上がったときには、良い気持 を感じました。感謝が胸に満ちまし た。あのように暖かい気持はそれまで 一度も経験したことがありませんでし た。心に熱く燃えるものが体中をめぐ って、その強烈さに、まるで自分が燃 え尽きてしまうのではないかと思えた ほどです。

私は寝室に戻ると,妻を起こしました。私はまだ泣いていたので,妻はどうしたことかと尋ねました。それで,自分の生活を変えて,イエス・キリストの福音を取り入れたいと話すと,妻は即座に私を援助すると言ってくれました。そのとき以来,タバコや酒やコーヒーを飲みたいという気持は一度も感じません。

主は私を祝福し始め、今も祝福は絶えません。1年もしないうちに私の手で子供たちにバプテスマを施し、その後すぐに、妻にも施すことができました。それから1年してローガン神殿へ行き、永遠の結婚をして子供たちとの結び固めをしました。

主は迷える小羊が帰ってくるのを心から喜ばれると、私は証いたします。 私たちが罪を悔い改めて戒めを守ると きに、主はだれにでも愛と親切を示されるのです。

走れども

疲れず

レオ・W・スペンサー

60年余り昔、12歳そこそこの私はそれでも父親と肩を並べて立派に刈入れの仕事をした。麦を刈って束にする仕事は重労働で、来る日も来る日もそれが続いた。

ある土曜日, 夜明けと共に作業を始めて終わったのは夜の8時半, 私は非常に疲れて夕食もとらずに眠りたいと思った。

父は私を見ておだやかに言った。

「リー,きょう刈った麦はきれいな緑だ。月曜まで積まないでほっておけばしぼんでしまう。今晩中にしなくてはだめだ。明るい月夜だ。いっしょに手伝えるか?」

私は涙をこらえてうなずいた。

父は言った。「よし、急いで夕飯を すましたら豚にえさをやらなきゃな。 それから積もう。」

パンとミルクの食事はすぐに終わったが、私はそれでもぐったりと疲れていて、頭を上げるのさえおっくうだった。父が豚にえさをやりに出て行くと、私は食卓についたままつらい思いで考えた。「タバコもお酒も飲んだことなんでない。いつだって知恵のはまできたんだ。教義と聖約には歩いても気を失うことがないって書いてあるのに、ぼくはこんなに疲れて、頭を上げるのだってやっとなんだ。」くたびれきってついあふれそうな涙をけんめいにこらえていると、唇がわなわなと震えた。

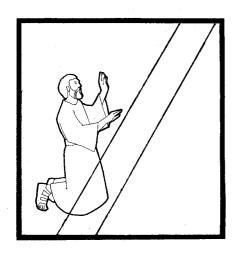
そのとき何が起きたのか説明はできない。しかし白く美しい光が私の体に射し込んで,体中の組織を満たしたような思いがした。私は父が戻ってくると立ち上がって,一緒に畑に出た。

父は仕事が非常に早い人だが、その 夜はいくら頑張っても私に追いつけな かった。私はあちこちの刈束を駆け集 め、自分の体重よりもずっと重い束を あっちの列からこっちの列へとほうり

> 投げた。父の驚きの目は 今でも忘れられない。

私の身にそのとき何が 起きたかを父に話したの はそれから30年後だった が、父はまだその晩のこ とを覚えていた。私もあ のことは決して忘れられ ない。









イエスさまが亡くなられたあと,教会の人々は多くのはくがいを受けました。はくがいのリーダーはサウロという名前のりっぱな教育を受けた人でした。サウロはキリスト教徒からとてもおそれられていました。というのも,村から村,家から家へとキリスト教徒をさがしまわっていたからです。

ある日, サウロはダマスコへ行くと ちゅう, とつぜん天からの光にとりか こまれました。

この強い光を受けたサウロは目が見えなくなり、地にたおれてしまいました。そのとき、声が聞こえました。「サウロ、サウロ、なぜわたしをはくがいするのか。」

「あなたは、どなたですか。」 サウロはたずねました。

するとその声は,「わたしは,あな たがはくがいしているイエスである」 と答えました。

おどろいてふるえながら, サウロは 言いました。「主よ, わたしは何をし たらよいでしょうか。」

「さあ、立って、町にはいって行きなさい。そうすれば、そこであなたのなすべきことが告げられるであろう。」

サウロは目が見えなくなったので, 一緒にいた人たちがサウロの手を引い て, ダマスコまで連れて行きました。

タルソのサ ウロ

(フランネルボード用物語)

使徒行伝9:1-22

サウロはそこに3日間とどまって、断食をして祈り、何をすべきかを考えました。

ダマスコには、アナニャというキリストの弟子がいました。まぼろしの中で主はアナニャに言われました。「アナニャよ、立って、……行き、……サウロというタルソ人をたずねなさい。彼はいま祈っている。彼はアナニャという人がはいってきて、手を自分の上において再び見えるようにしてくれるのを、まぼろしで見たのである。」

するとアナニャは, 「主よ, あの人 がどんなにひざいことをしたかについ て聞いています」と言いました。

しかし主はこう言われました。「さあ,行きなさい。あの人は,……わたしの名を伝える器として,わたしが選

んだ者である。わたしの名のために彼 がどんなに苦しまなければならないか を、彼に知らせよう。」

そこでアナニヤはサウロにあいに行きました。アナニヤはサウロの頭に手をおいて、こう言いました。「兄弟サウロよ、あなたが来るとちゅうで現われた主イエスは、あなたが再び見えるようになるため、そして聖霊に満たされるために、わたしをここにおつかわしになったのです。」

するとすぐに、サウロの目はもとど おり見えるようになりました。そこで サウロは立って、バプテスマを受けま した。

ダマスコで弟子たちと数日間を過ご すと, サウロは教会堂へ行って, キリ ストの福音をのべ伝えました。

これを聞いた人たちはみなおどろいて、言いました。「あれはイエスの名をとなえる者たちを苦しめた男ではないか。」

しかしサウロは、イエスさまについてよく知っており、証も強かったので、イエスさまが本当に神の御子であることを、人々にいっしょうけんめい教えました。

注: 360ページの絵をていねいに切りぬいて裏にフランネルをつけます。



小さなお友だちへ

おはなし 十二使徒評議員

ゴードン・B・ヒンクレー



神さま、予言者をあたえてくださって ありがとう

みなさんは、「感謝を神にささげん」というさんび歌をうたったことがあるでしょう。この歌は、今から百年以上も前から、たくさんの人々によってうたわれてきました。この歌は、神さまにとても感謝しています、という気持をあらわしています。世界中のお友だちはこの歌が大好きです。だからこの歌は、いろいろな国の言葉でうたわれるようになってきました。みなさんは、この歌がいくつの国の言葉でうたわれているか知っていますか。なんと21の国の言葉でうたわれているのですよ。みんなは、「神さま、いろいろなことを教えてくださってありがとう」という気持で、この歌をうたいます。これは、とてもけいけんなお祈りとも言えますね。

みなさんのまわりを見てごらんなさい。とてもひどい戦争 や,交通事故や,物がなくてこまっているとか,いやなこと がたくさんあるでしょう。でも私たちはしあわせですね。私 たちには,神さまがこうしなさいと言っておられますよ,と 教えてくれる予言者がいるのですから。みなさんは,神さま を信じる,ということはどういうことか知っていますか? それは,こういうことなのですよ。神さまはまず,ご自分が 思っていらっしゃることを予言者に知らせます。次に予言者 は,そのことを私たちに教えてくれるというわけです。みな さんは,このことをはっきり知っていますか。これをはっき り知ることが神さまを信じているということなのです。私た ちは,予言者から,神さまのみこころを聞くことができま す。予言者がいるということは,なんとすばらしいことでし ょう。

予言者は私たちに、これからこんなことがあるから注意しなさい、と教えてくれます。それから、ほんとうに正しいことについて教えてくれます。また予言者は、しあわせになる方法も私たちに教えてくれるのです。

私はここで、ひとりの青年のお話をしたいと思います。その人は、神さまを信じていました。また、予言者のいる教会を知りたいと思いました。そこでこの人は、あっちの教会、こっちの教会、とさがしまわりました。でもどうしても見つ

かりませんでした。ところがあるとき、ユダヤ教の教会には 予言者がいることを知りました。そしてこの青年はユダヤ教 を信じるようになりました。

ところが1964年の夏のことです。この青年はニューヨークの世界博覧会に行きました。そしてモルモンパビリオンに入ったのです。そこでこの青年は、旧約聖書の中に出てくる予言者の絵を見ました。また宣教師たちの話も聞きました。昔エホバは、ご自分のみこころをこの絵の予言者たちに知らされた、という話でした。宣教師がそのことをとても感謝しているということもわかりました。この青年はそのとき、とても心があたたかくなるのを感じました。

それから、もっとすばらしいことを聞きました。現代にも 予言者がいるというのです。予言者とか聖見者とか啓示を受 ける者とか呼ばれている人たちがいるということを聞きまし た。ジョセフ・スミスや、ブリガム・ヤングやそのほかの人



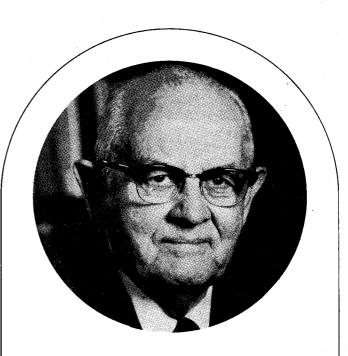
のことを聞いたのです。この人は、お話を聞いて何だかうれしくてたまらない気持になってきました。そして宣教師たちが証したことは、たしかにほんとうだ、と思いました。こうしてこの青年はパプテスマを受けました。そして南アメリカに行って、いっしょうけんめいに伝道しました。そしてたくさんの人々にパプテスマをほどこしたのです。家に帰ってからは、家族や親せきの人や友だちに、教会に行くように熱心にすすめました。この人は、ジョセフ・スミスが神さまの予言者だったことを、はっきりと証しています。そしてこの人と同じように伝道に出た人たちもみな、ジョセフ・スミスが予言者だったことを証しているのです。私はその証を聞くときに、とても心があたたかくなります。

神さまは、ジョセフ・スミスに、とてもたいせつなことをするようにとおっしゃいました。それは、地上にもう一度神さまのほんとうの教会を建てることを手伝ってほしい、ということでした。ジョセフ・スミスは、喜んで神さまのお手伝いをして、いっしょうけんめいにはたらきました。私は、そのことをとても感謝しています。またジョセフ・スミスのいうとおりにはたらいた人たちにも感謝しています。神さまはこの人たちを選び、くんれんし、よくなるように導かれました。それはこの人たちが、神さまといつまでもいっしょに住むのに、とてもひつようなことだったからです。この人たちのことを学ぶと、そのことがよくわかります。この人たちは神さまの王国をこの地上に建てるために、いっしょうけんめいにはたらいた人たちなのです。

ハロルド・B・リー大管長がおなくなりになった後、新し くスペンサー・W・キンボール大管長が召されました。キン ボール大管長は今生きていらっしゃる予言者です。キンボー ル大管長は、小さいときからとてもけんそんな方でした。そ して宣教師として熱心に伝道され、いっしょうけんめいには たらくことがとてもたいせつであることを学んだのです。そ の熱心さといったら、まるで自分のことなどわすれてしまう ほどでした。こうしてキンボール大管長は、人々に神さまの 教えをのべつたえていったのです。ところがあるとき、とて も重い病気にかかってしまいました。そのとき大管長は、と ても苦しい思いをなさいました。とても悲しい思いもなさっ たのです。キンボール大管長は清らかなお方です。そして私 たちのよいもはんです。大管長は私たちがためされているこ とや、苦しいことや、悲しいことをよくわかってくださいま す。そしていつもすばらしい霊感によって、みんなを力づけ てくださるのです。

みなさんにはすばらしいお友だちがいます。そうです。キ ンボール大管長です。大管長はみんなが大好きなのです。

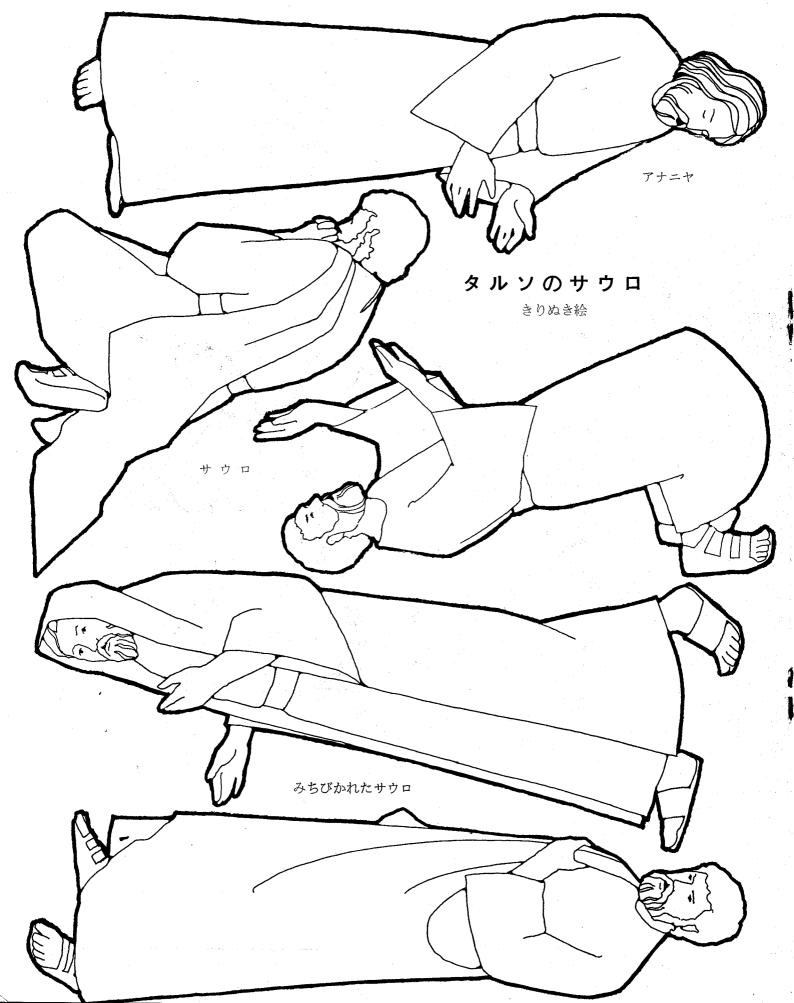
スペンサー・W・キンボール大管長は、神さまから召された予言者です。私はこのことを心から証します。さあ、みんなで声をあわせて歌いましょう。「かんしゃをかみにささげん よげんしゃのみちびき」



スペンサー・W・キンボール大管長は、末日 聖徒イエス・キリスト教会の予言者に召されま した。また第一副管長にはN・エルドン・タナー、第二副管長にはマリオン・G・ロムニーが それぞれ選ばれました。この人たちは、ハロルド・B・リー大管長のときも副管長としてはた らいた人たちです。

キンボール大管長はこのようにおっしゃっています。「みなさんは、おとうさんやおかあさんといっしょに、神さまを信じて正しく生活してください。そうすれば、主はたくさんの祝福をみなさんにあたえてくださいます。神さまは約束をかならず守ってくださるお方です。私はこのことをよく知っています。」

私たちは、キンボール大管長とふたりの副管 長をよく助けて、この人たちのためにいっしょ にお祈りしようではありませんか。このすばら しい人たちは、みなさんをとても愛していらっ しゃいます。そして教会をとても愛していらっ しゃるのです。キンボール大管長たちは、教会 のすばらしい指導者です。そればかりではあり ません。みなさんのとてもよいお友だちなので す。

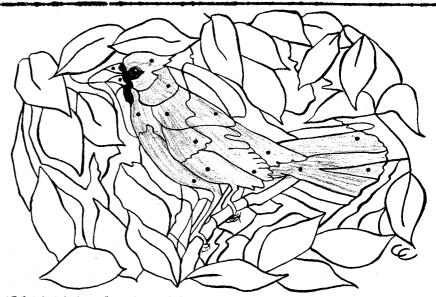


おもちゃ ばこ てんのあるところをぬ りましょう。

キャロル・コナー

赤えんぴつかクレヨン でぬりましょう。 みごとなとさかのつい ている鳥ができあがり ます

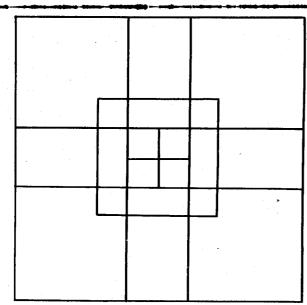
1.4:242



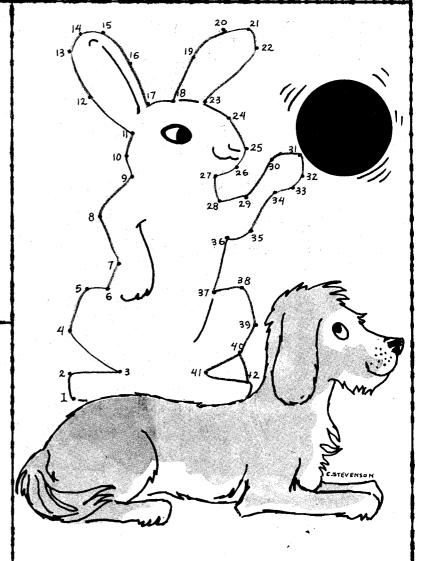
THE SEE BUILDING



こら、あしをひきずるんじゃない!!



正方形がいくつあるかな? よく見てごらん。ちょっとむずかしいよ。



てんをむすんでごらん。

シャーロット・スティーブンソン

ほっきょくにいる動物というと、私たちは白くまやあざらしやせいうちスマートなりゅうせんけいをしていちは、あわれなおじいさんせいうちは、おとなったながいます。せいうちは、おとなかだながいます。しんちょう4メートル、めかにながないと、しんちょうにもなががながらしています。その動物の中で一ばんかです。人間がけていると、していせいうちの赤ちゃんはひざのとなった。

ぼっていこうとします。

やがてせいうちの赤ちゃんがおとなになって、人間が一ばんおそろしいてきだとわかりはじめると、だんだん人間にけいかい心をもつようになります。しかし、ざんねんながらせいうちはまぬけに見えるばかりでなく、じっさいのどうさもまがぬけているので、そのけいかい心もあまりやくにたちせん。せいうちののうみそは、人間や白くまののうみそよりも小さいです。白くまは、ほっきょく地方では、せいうちにとって、二ばんめにこわいてきです。

ですが、てきにおそわれたときは、あいてが何物であってもたたかって、みをまもります。せいうちのからだは、よろいのようにじょうぶで、いぼだらけです。そしてせいうちには、てきをやっつけるするどいきばがあります。

エスキモーは、せいうちを負かす勇気とうでをもっていなければなりませ



ん。エスキモーにとって, せいうちは 食物, 着物, 家などになる, たいせつ な動物です。

エスキモーは、このひげのかいじゅうの頭から足のさきまで、かわも肉もあらゆるものをやく立てます。おすのせいうちのかわは、ちょっとかたすぎますが、めすのかわは、ボートのじょうぶな力バーになります。また、せいうちの肉は食べることもでき、きょ大なからだには、りょうりや、だんぼうや、あかりに使う油がたくさんあります。いぶくろはいろいろな入れ物になり、頭はたいこにします。

きばはいろいろなどうぐや、ぶきに なります。きばでいろいろなちょうこ くを作って、かんこうきゃくのおみや げにもします。きばは、かたなのよう な長い歯です。せいうちは、むかしオ ドベヌスとよばれていました。これは 「歯で歩く動物」といういみです。せ いうちは、ほんとうに、きばを足のか わりに使って歩くのです。また、この きばは、白くまとたたかうときには、 とてもつよいぶきになります。また、 せいうちは、きばで、地めんをほって えさになるはまぐりや、かにをあつめ ます。 人間がやたらにりょうをしたおかげで、せいうちはへってしまいました。しかし、今では、動物たちは、ほうりつによってまもられています。しかしエスキモーにだけは、りょうをすることがゆるされています。エスキモーは 今でも せいうちりょうでせいかつしているからです。

せいうちは、たまに、内りくへ入ってくることがあります。季節によっては、せいうちの食物が、内りくのほうへ行くのです。しかし南からのかいりゅうが来るころになると、せいうちはかいりゅにのって行きます。せいうちは社会せいのある動物で、何頭ものむれを作って、たびをします。あるときはおよぎます。

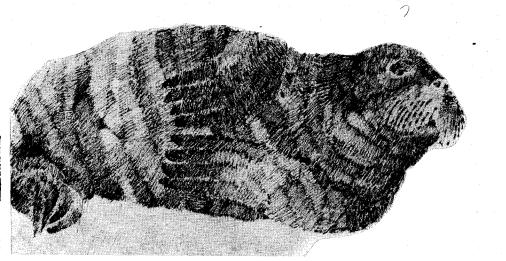
せいうちは、水の中で、しずんだりおぼれたりすることなく、ぐっすりとねむることがあります。頭だけ、水の上に出してねむります。このときが、せいうちがりのチャンスです。しかしハンターたちは、めのたに、そういうことはしません。だまがあたると、たちまち、せいうちは水の中に見えなくなってしまうからです。もし、しくじらずに、いとめたとしても、1トンい

じょうもあるせいうちを、きしまでは こぶのは、たいへんなしごとです。ま た、もしねらいがはずれれば、せいう ちは、すぐにその人をおそいます。水 の上では、人間も白くまもせいうちに はかないません。

白くまの食物は、あざらしや、さかなや、木のねっこですが、せいうちの肉を食べることもあります。白くまはよくせいうちの赤ちゃんをつかまえます。おとなのせいうちは白くまの2、3ばいも大きいので、白くまはめったにおとなのせいうちはおそいません。もし水の中でせいうちをおそったりすれば、たいていきばでころされてしまうか、水にしずめられてしまうかどちらかです。

エスキモーも、白くまも、せいうちが日光よくをするか、ねむるためにきしにやってきたときにおそいます。白くまは、まるで大きな白いねこのようにしずかにしのびより、大きな石かこおりのかたまりをもち上げて、せいうちの頭めがけてなげつけます。まるでうそのようなはなしですが、これは、ほっきょくではよく見られるこうけいです。

ほっきょくというしぜんの中で生き のこっていくことは、ほっきょくにす むものにとってさえ、やさしいことで はありません。もちろん、せいうちに とってもそうです。きょうぼうな人間 や、石をなげつけるひきょうな白くま のおかげで、せいうちのせいかつはか わりましたが、せいうちは、まだしあ わせに、のんきにくらしています。 と しあわせに、のんきにくらしています。



什分の一の祝福

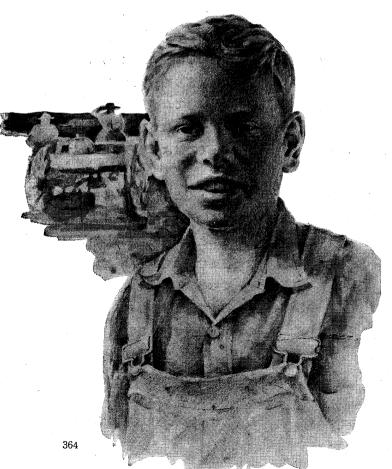
信仰のたまもの

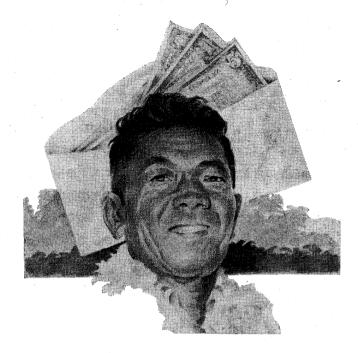
ロバート・L・シンプソン長老は、ニュージーランドに住むマオリの老人の信仰に深く心を打たれました。

ある日のこと、宣教師が道から少しはなれたそまつな魚つ り小屋にその老人をたずねてやってきました。宣教師のすが たを目にした老人は、急いでお金の入った封筒をさがして、 そくざに宣教師にわたしました。封筒の中には、老人が骨折 ってかせいだかなりの金額のお金が入っていたのです。

老人は前に、伝道本部から手紙をもらいました。英語で書かれていたので読めませんでしたが、金額が書いてあることはわかりました。伝道本部では何かとくべつの目的があってお金を必要としているにちがいない、老人はそう思ったのでした。そこで老人はいっしょうけんめい働いて、お金をため続けていたのです。そして、宣教師がやってきたときには、すっかりその用意ができていました。

宣教師が手紙をほんやくしてくれたとき、老人はびっくりしました。というのも、それは去年1年間におさめた什分の一の領収書だったからです。このマオリの老人はとても信仰が強かったので、主のしもべがみわざを行なうために必要ならと、たくわえたお金を喜んでおさめようとしたのです。





祝福を分ちあいましょう

リグランド・リチャーズ長老が、教会の管理監督だったときのことです。ある日のこと、リチャーズ監督は、きみょうな形をした大きなかぽちゃを運んでいる少年に出会いました。そこでその少年に、「このかぽちゃをどうするつもりなのかね」とたずねてみました。

すると、「全部ぼくひとりで育てた作物の中からこのかぼ ちゃをえらんで、什分の一として監督さんのところにおさめ に行くところです」という答えが返ってきました。

リチャーズ監督は、少年の名前をきいて、のちに少年の家をおとずれました。そして少年に、什分の一の大切さについて少し話しました。また、人々と分ちあうために什分の一をおさめるとき、あたえられる祝福についても話しました。

2,3日たって、リチャーズ監督がソルトレークシティーにある地区の倉庫を出て、事務所へ帰ろうとしていたときです。一組の老人夫婦が、小さな荷車に荷を積みこんでいるのを目にしました。ふたりは、倉庫から必要な品物を受けとって、家に帰ろうとしていたところでした。近よってみると、荷車の中に、あの少年が運んでいた例の大きなかぼちゃが入っていました。たしかにあのかぼちゃです。あの大きさ、きみょうな形、まちがいっこありません。

そのことがあってしばらくしてから、少年はリチャーズ監督から手紙をもらいました。どんなにかおどろいたことでしょう。手紙には、あの大きなかばちゃがお年寄夫婦にとても喜ばれていた、ということが書いてありました。おじいさんとおばあさんは、このかばちゃを使ってお祭の日のごちそうが作れたことでしょう。少年は什分の一をおさめることによって、祝福を分ちあったのです。



子孫に知らせるため

ポール・F・ローヤル

「そのとき、主を恐れる者は互に語った。 主は耳を傾けてこれを聞かれた。そして主を恐れる者、およびその名を心に留めている者のために、主の前に一つの覚え書がしるされた。

『万軍の主は言われる,彼らはわたしが手を下して事を行う日に,わたしの者となり,わたしの宝となる。…』」(マラキ3:16,17)

神は、えりぬきの息子と娘、すなわち神に仕えると誓約したすべての者たちの名前と、彼らが忠実に果たした業とをひとつの覚えの書に記録し、それによってその書に名前の記された人々を忠実な息子、娘とみなそうと望んでおられる。これは何とすばらしいことであろうか。

「親」たるにふさわしい親で、その 子供たち, すなわち自分のもとに送ら れてきた息子や娘に思いをかけず、ま た神が子供たちを祝福し, 両親への信 頼をその心に保たせて下さるよう祈る ことなく, 夜床に臥す者はいない。昔 の親たちも例外ではない。彼らもその 子孫が、神によって立てられた予言者 や賢者たちの言葉に心を留めるよう望 んでいた。予言的な意味を含み、値ぶ みできない宝石にも比較される言葉の ひとつに、モルモン経に記されたリー ハイの言葉がある。リーハイは死が近 づいたあるとき,愛する子供たちを集 めて,彼らの今後の生活について助言 と指示を与えた。そして彼は族長とし てこう語った。

「それは主なる神が『汝らわが命令に従わば、地に栄ゆべし。されど汝らわが命令を守らずばわが前より追い出さるべし』と仰せになったからである。

しかしごらん、私の孫たちよ。私はお前たちに祝福を与えなかったなら安心して死ねない。私はお前たちが従うべき道に従って育てられたなら、その道から外れないことを知っているからである。」(\mathbb{I} =-7 =7 =4 =4 =4 =5)

子供は野の花のように成長することは許されない。人生の道と主の道について教えなければならないのである。 覚えの書の持つ大きな目的のひとつは、子供の心をその両親と祖父母の信仰と豊かな経験で満たし、主の道をよく理解するよう、正義の道に従ってそ

の子供を育てあげることである。

モルモン経中のもうひとつの感動的な話は、民を呼び集めて主のみ言葉を伝えた、ベンジャミン王のそれである。招集に応じて集まった人々が非常に多かったので、メッセージを聞くために来た民の中のある者たちは神殿の近くない。そこで、記録に入口がよると、すべての家族は神殿に入口が向えると、すべて、また王は、人ができるように、ひとつの塔を建てた。さらに、王が群衆に伝える事柄をすべての家族が知ることができるようにするため、王の言葉を書き取らなければならなかった。

ベンジャミン王は民に、神の王国における敷いと昇栄を得ることができるよう、まず主を知ってほしいと語った。 民は熱心に王の言葉に聞き入り、みたまを受けて地にひれ伏し、イエス・キリストを受け入れ、また信じると証言した。非常に豊かにみたまを受けたため、民は心の中に大きな変化を味わった。そして、悪を行なう気質はもはや完全に払われてしまった。

しかしながら、残念なことに、その 日集まった民の見落とした事柄がひと つあった。当時の予言者は記録者とし てその出来事を記録したけれども、民 が覚えの書を作らなかったことであ る。従って、その子供たちは、そのす ばらしい霊感あふれる経験を、父の言 葉を通して教えられなかった。モーサ ヤは、父ベンジャミン王が死に、民の 子供たちが成人しようとした当時の様 子をこう記している。

「そのころの若者の中には, ベンジャミン王が教えを告げた時まだ幼児であってその言葉を会得できない者が多

かった。それで、このような者たちは 今その先祖の言伝えを信ぜず、

また死者の復活に関する教えもキリストの降臨に関する教えも信じなかった。

かれらはその不信仰のために、神の 道を理解することができなくてその心 がかたくなってしまっていた。

従ってかれらはバプテスマを受けようともせず,また教会に入ろうともせず,その信仰については全然違った民となり,いつまでもその有様で肉欲になけり罪悪を犯した。それはその神である主に祈り求めようとしなかったからである。」(モーサヤ26:1-4)

真理に対して心をかたくし,義を全うするために教会に入るということをせず,肉欲と罪悪に陥った状態を良しとして信仰とみ業から離れている,そのような子供を持つ者が私たちの中にいないだろうか。私たちのある者は奇しき霊的な経験を持ちながら子供たちが,私たちの経験した教会への改宗,あるいは神を信じるに至った大きな出来事を信じない。そんなことがあってよいだろうか。ニーファイ第二書には,次のように記されている。

「それであるから、ヨセフの子孫は 大地の在るかぎり決して亡びないと言 う約束をヨセフのために果 そ う と し て、主なる神は私が今ここに記すこと を、子々孫々に保存して代々相伝える ことを私に約束したもうた。」(IIニー ファイ25:21)

この言葉から、モルモン経の記録は 実質上ひとつの覚えの書であることが わかる。それ故、私たちはそれぞれに 自分の覚えの書を聖典と呼ぶことがで きる。なぜなら、もし主の指示された 方法で記録するなら、それは家族にとって聖典だからである。

「……この記事を所有する国民はそれにのっている言葉によって裁きを受けるのである。

だから私たちが力をつくして書き誌すのは、自分たちの子孫と兄弟たちを説得してキリストを信じさせ、神との一致を得させるためであり、それは人が最善をつくしてはじめて、神のめぐみにより救われることを知っているからである。

私たちはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを予言し、また私たちの子孫にどこに罪の赦しを求めるかを知らせるために自分たちが予言したことも書くのである。」(『ニーファイ25:22,23,26)

覚えの書を作る目的がここに簡潔な言葉で記されている。すなわち「子孫に知らせるため」である。私たちは家庭にこの書を備えることによって、私たちの家族関係と信仰とを滅ぼそうとする悪魔の力に対抗する、堅固な砦を築くことができるのである。

主が啓示によって示されたように、 私たちは個々別々に復活して救われ得る。しかしそのときにはしもべとして しか救われない。一方、神のみ言葉に 言われている昇栄とは、家族単位で得る救いを指すものである。さらに、覚えの書の持つ第一の目的は、その家族 ならびに先祖にあたる人々に授けられた永遠の約束を伝えることである。

「末日聖徒の家庭にある家族の覚えの書は、その重要性から考えると、標準聖典に次ぐものである。忠実な教会員の子孫にとって、これらの家族の記録は聖典の付加記録であり、イエス・

キリストの福音を教える上で助けとなるものである。文字になった家族の証と霊的な経験,ならびに証明済みの先祖の系図を知ることによって,子孫の心はその先祖につながる。また同時に家族の昇栄に関連する教義を理解する上でも有益である……。

すべての忠実な家族は、怠ることなく覚えの書を作成している は ず で あ る。そしてその書には、家族の来歴、特に霊的な経験が霊感によって記されているはずである。また子孫が、その先祖について知ることがで きる ように、家族の系図も含まれているはずである。」($Improvement\ Era$ 「インプルーブメント・エラ」、1966年4月号、[英文】 $\mathbf{P}.294$ 、295)

家族が上に述べたものを書の中に見いだせるようにするため、私たちの覚えの書には何を入れなければならないだろうか。まず、できるだけ過去にさかのぼって、入手できるすべての先祖の系図表を作ってそれに入れる。先祖の一覧表とも言えるこの系図表は、その名前だけでなく、調査する際にどこにあったらよいかも教えてくれる。

次は、系図表に名前の出ている夫婦の家族の記録である。家族の関係がすべてわかるように、家族の構成をそのまま記さなければならない。こうすれば、系図表では直系先祖がわかり、一方家族の記録では傍系親族がわかる。

次に、夫婦と子供たち各人の個人の記録を入れる。信仰を助長するような経験はすべて、個人の記録に記録すべきである。子供たちは、自分と両親に与えられた神の祝福と施しを考え、思い起こせるよう、この記録を持つ必要がある。私たちは家族にこれらの事柄を教え、それを力として彼らの心を変

え, 改宗させる義務を負っている。

この個人の歴史を作成するにあたっては、家族の絆を一層強くする上で役立った出来事について記すべきである。また、祝福と試しのとき、ならびに主の祝福がそそがれたことによって、いつ好ましい結果が得られたかについても記録する。

私たちは子供たちのためにも覚えの 書を作成すべきである。しかしこれは スクラップブックではないので生涯に 関連ある事柄を何でも入れるというも のではない。各人をそれぞれ個人とし て特徴づける出来事のみをそれに記録 すべきである。エノクのことを考えて みよう。彼の述べた覚えの書はスクラ ップブックであったなどと想像できよ うか。私にはとても考えられない。こ の書からさし絵が抜け落ちたり, 色あ せたバラの花が頁にはさまれていたり することはなかったはずである。彼エ ノクは, この書を読んで先祖のことを 知り、また先祖に伸べられた神のみ手 を知って信仰を得たのであった。

正しく編集された覚えの書からは、どんな探究活動が先祖の名前の調査のために行なわれてきたかがわかり、また先祖のために神殿の儀式が執行できるようにするため、これからどんな仕事をすればよいかも知ることができる。今日では教会のプログラムとして神殿に個人の名前を提出することができるので、かつてなく系統立った覚えの書を必要としている。名前を集め、儀式を執行するにあたっては、各家族全員の儀式が確実に行なわれるように、家族の記録を系統的な方法で作成しておかなければならない。

覚えの書を持つ大きな理由は、子孫 のために信仰の記録を残し、先祖が彼 らと同じような幸せと喜びを経験した ことを知らせて、確固たる気持を持っ て彼らが信仰を堅持できるようにする ことである。先祖はまた、彼らと同じ 困難と心痛、さらに同じ誤まった判断 を経験してきたのである。それによっ て子孫は、神が、戒めを守ろうと努め るすべての神の子らの罪を赦し、祝福 を与えたもうことを知るのである。

こうして私たちは、覚えの書から、 家族の目標を定めることができるはず である。覚えの書は実際単なる道具に すぎない。しかし、道具がなければど うして築き上げることができるであろ うか。

家族の各人の覚えの書は、高価なものである必要はない。教会のすべてのワード部には、覚えの書の用具の入手を喜んで助けてくれる神権指導者がいる。この責任を受けているのが大祭司グループリーダーである。また、グループリーダーと定員会会員は、教会員が主の勧告に従えるよう助けるために力を尽くしてくれることであろう。

覚えの書は、私たちが幸せで一致した家庭生活を営めるよう助けるものである。私はこの業が真実のものであることを知っており、ここにそのことを証する。

ローヤル兄弟は過去10年間, 系 図協会の書記長を務めてきた。 また, 5年間パイオニア・ステーキ部高等評議員を務め, 現在 ソルトレーク・ステーキ部キャ ピトルヒル第2ワード部で福音 の教義クラスの教師をしている。

神のみわざを清く押し進める

スペンサ・W・キンボール大管長

兄弟姉妹,友人の方々,今年もまた, 主なる教い主イエス・キリストの生誕 の月,4月が巡ってきた。私たちは4 月6日にそれを祝っており,また,こ の週末に末日聖徒イエス・キリスト教 会第144回年次総大会が催されている。

先の3回の大会は指導者にハロルド・B・リー大管長を迎えていたが,今大会はその姿が見えない。実に寂しい、ことである。リー大管長は多くの才能を持った力と勇気の人であり,ひと筋に主の教えに従う人であった。

12月26日に私たちは彼を失った。彼は難攻不落の山にそびえる巨大な峰であった。彼は永遠の時に大きな足跡を残した。

ジョー・M・ショー姉妹が追悼の詩を書かれたが、私はそれをもって、謙遜に真心から、ハロルド・B・リー大管長への私たちの愛を表明したいと思う。同時にここに、リー姉妹の同席を得られたことを感謝する次第である。

神の予言者ハロルド・B・リー大 管長に寄せて

予言者すでに逝き,神の聖徒ら 墓に立ちて悲しむ。 我ら泣き,天は泣き,涙

冬の芝土にしたたる。

生きかつ死に、その言葉の 価を知らざる者あり。 かの人生の予言者たるを 知らぬがため。

遠国に住み、声聞かず、 面見ず、触れしことなき者の かの人に慰めを受くるあり。 かの人のやさしき慈愛を知る者あ り。

予言者の胸中近くに住み, ひざまずき,相祈る者あり。 気高き人とまみえ, 彼ら,かの人の愛の手を知る。

かの人を知りし我、かの名をほめ

たたう。 かの人を今知る我。 我ら天とともに泣きし十二月の 悲しき日は胸に久しく残るべし。

私たちは大管長の逝去を 悼み 惜しむ。しかし今となっては、残された私たちにはただ前進あるのみである。

記者会見では、例にもれず、「大管 長、教会を指導する立場に立たれまし たが、これからどうなさいますか」と 尋ねられた。

私の答えはこうであった。十二使徒としての過去30年間,私は現在ある包括的で完全なプログラムの編成や方針設定にわずかばかりしか関与してこなかった。また,近い将来に大きな変更が加えられるとも思わない。ただ,既存のプログラムの幾つかに特に力を入れたいと望んでいる。今は,私たちの努力をさらに結集し,プログラムを強固なものとし,方針を再確認する時である。

私たちは、今教会の最大の問題が急速な発展にあることを認めている。教会員数の増加ぶりは異常とも言うべきで、ここ数年で倍増している。30年前の数十万人が、今は300万人を越える。1943年に私が初めてステーキ部を訪問

する責任を受けたときには 146 であったステーキ部が、現在は 635 ほどになっている。1943年には38の伝道部が、現在は 107 である。当時海外にステーキ部はなかったが、今では70を数える。この空前の発展は喜びであるが、同時に非常なチャレンジである。しかし数

を清く保てるように助ける こと である。そうするときに、私たちに関係ある幾つかの重要な事柄が再認識されるであろう。

ひとつは,私たちの社会に対する責任である。主はこの神権時代の初期に 政府に対する回復された教会の取るべ 国の法律は、すべての人類に属し且つわが前に正しとせらる。この故に主なるわれは、汝……がこの国の立憲的法律なるその法律の力となることを正しと認むるなり。」(教義と聖約98:4-6)教会はその後、この啓示に呼応して次のような信仰箇条を表明した。「われらは、王、大統領、統治者、長官に従うべきを信じ、また法律を守り、敬い、支うべきを信ず。」(信仰箇条第12条)

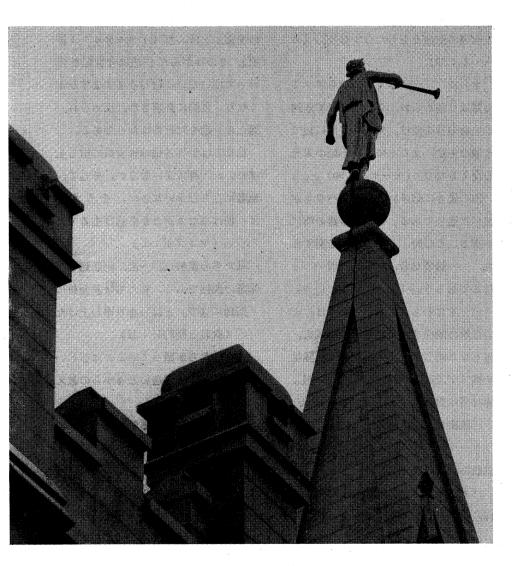
1835年の総会で、教会は満場一致で「ひろく政府および法律に関する所信

1835年の総会で、教会は満場一致で「ひろく政府および法律に関する所信の宣言」を採択した。その内容は次の通りである。「われらは信ず。すべて政府は政府の法律を施行せんがため、必然吏員および長官らを要す。而して、公平と正義とを以て法律を行う如き人物は、これを求めて共和国の場合にはまた主権者の意志によりて支持すべきなり。」(教義と聖約134:3)

1903年にジョセフ・**F**・スミス大管 長は語った。「教会(として)は政治に 関与しない。教会員個人が自分の意志 で特定の政党に属するのである。……」 ("*The Probable Cause*"『相当の 根拠』「インプルーブメント・エラ」 1903年 6 月号, 〔英文〕**P**.626)

1951年の10月大会で、大管長会はこのように述べている。

「私たちの一致を脅かすものは、熱 狂的な政治論争から発展した見苦しい 個人間の対立である。教会は公平、正 義、自由を基礎とした良い政治と、役 人の清廉潔白なこと、あるいは教会員 が政治に活発に参加すること、市民活 動の義務を果たすことなどの諸原則を



字は二の次である。まず大切なことは、すべての人が永遠の生命を得ることである。そこで1974年の一大チャレンジは、急増する教会員のユニットによく訓練された指導者を備えることと、その教会員たちがまわりの世界から自ら

き立場を明らかにされた。予言者ジョセフ・スミスに与えた啓示の中で,主はこう言われた。「さて,われ誠にこの国の法律に就きて汝らに告ぐ……。立憲的にして,且つ権利と特権とを支持してかの自由の主義を擁護するこの

唱道する権利を有しながらも,個人の 選択と参加の自由を何ら圧迫しない。 ……それに反した説明をする者は権威 なく間違いを犯す者である。」(スチー ブン・L・リチャーズ長老,Conference Report「大会報告」,1951年10月,〔英 文〕 P.114,115)

私たちは、政府と政治に関する現在の教会の立場を示すものとして、上記の声明を再確認するものである。

すべての末日聖徒は,立憲的なその 国の法律を支持し,敬い,従うべきで ある。

教会の前例のない発展に伴う第2の問題は、世のことである。険しい山や深い谷、熱い砂漠や底知れぬ海ではなく、あまりにも多くの教会員が迎合するその生き方のことである。

「世と世にあるものとを,愛してはいけない。もし,世を愛する者があれば,父の愛は彼のうちにない。すべて世にあるもの,すなわち,肉の欲,目の欲,持ち物の誇は,父から出たものではなく,世から出たものである。」

 $(I \exists N \hat{\lambda} 2 : 15, 16)$

世は、私たちの生活を少しずつ侵食 する。恐ろしいことである。多くの者 にとって、世にありながら世のものと ならないことは、何とむずかしく思わ れることか。

主はイザヤを通じて、こう言われる。「わたしはその悪のために世を罰し、その不義のために悪い者を罰し、高ぶる者の誇をとどめ、あらぶる者の高慢を低くする。」(イザヤ13:11)

サタンは主を非常に高い山に連れて 行き、「もしあなたが、ひれ伏してわ たしを拝むなら、これらのものを皆あ なたにあげましょう」(マタイ4:9)と約束した。

「これらのもの」とは邪悪のきわみ, 悪徳の地,肉の喜び,肉欲の誘惑であった。

昔,主は綿密な計画をされた末, こう宣言された。「見よ, これわが業にしてわが栄光, すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり。」(モーセ1:39)

さらに、「……かくして汝らすべて の罪より清められ、この世に於て永遠 の生命の言を受け、来るべき世に於て 永遠の生命、まことに不死不滅の栄光 を受くるなり」(モーセ6:59)と。

肉の働きは数多い。それはパウロが述べた通りである。「……苦難の時代が来る。その時,人々は自分を愛する者,……無情な者,無節制な者……となるであろう。」(『テモテ3:1—3)「……すなわち,彼らの中の女は,その自然の関係を不自然なものに代え,男もまた同じように女との自然の関係を捨てて,互にその情欲の炎を燃やし,男は男に対して恥ずべきことをなし,……悪事をたくらむ者…となり,…」(ローマ1:26,27,30)盗む者,大酒飲み,奪う者となるであろう。

「不貞のやからよ。世を友とするのは、神への敵対であることを、知らないのか。おおよそ世の友となろうと思う者は、自らを神の敵とするのである。」(ヤコブ4:4)

これが、私たちが世と呼んでいる醜い行ないの幾つかである。

主は十字架につけられる直前にこう 嘆願された。「わたしがお願いするの は、彼らを世から取り去ることではな く,彼らを悪しき者から守って下さる ことであります。」(ヨハネ17:15)

これは私たちが常々捧げている祈り であり、教会員が正しい生活によって 聖められることこそ、私たちが努力を 傾けている点である。

パウロは上記の醜悪な罪の数々を「悪霊の教」と呼び、その張本人を「惑わす霊」と呼んだ(Iテモテ4:1参照)。そのゆがんだ生活は今世紀も変わってはいない。むしろますますひどくなり、世間に許容され、広められ、悪化の一途をたどるばかりである。

私たちは世界各地の教会員に申し上げたい。「神に従いなさい。そして, 悪魔に立ちむかいなさい。そうすれば,彼はあなたがたから逃げ去るであろう。」(ヤコブ4:7)

私たちの説教は、一面、再認識と再保証の説教である。私たちは教会員に「聖地に立て」とはっきり申し上げたい。(教義と聖約45:32)

今日私たちが語っているのは新しい 教義ではなく、創造のときからの教え である。

世の情勢と忍びよる悪の影に,ばく然とした不安感を抱く人があるかもしれない。しかし主は言われた。「……もし汝らに備えあらば怖るることなからん。」(教義と聖約38:30) そして,「わたしは平安をあなたがたは心を騒がせるな,またおじけるな」(ヨハネ14:27)と。

あなたがたは導きを求めてここに来 られた。その指標を与えることが,指 導者の目的である。兄弟たちが語ると き,あなたがたは主のみたまを感じる であろう。福音は私たちの生活に目的 を与える。それは幸福への道である。 エライザ・ \mathbf{R} ・スノー姉妹は,主に ついてこう詩った。

「光と生命の道をしめし, 主は神のもとへ導きます」

(末日聖徒讃美歌,72番)

さて、家族は基礎である。私たちは 天父の子供である。そして天父が私た ちを愛しておられるように、私たちは 子孫に結ばれている。すべての徳はキ リストの福音に合致する。

その光に照らされた道は、私たちを正常で清らかな男女交際へ導き、それはやがて完き権能を持つ神のしもべが永遠にふたりを結び固める、あの聖壇での清らかな結婚に至るのである。へブルの聖徒たちはこう教えられた。「すべての人は、結婚を重んずべきである。また寝床を汚してはならない。神は、不品行な者や姦淫をする者をさばかれる。」(ヘブル13:4)

そして, 結婚を非難したり後回しに したり禁止したりする人々を、パウロ は責めた。結婚の責任を回避するのは おおむね利己的であったり、冷淡で自 己中心的であったりという気持からで ある。結婚反対の主張をする 者は多 い。教会員ですら、結婚を延ばしたり、 異議を唱える者がある。それらの「悪 霊の教」にあざむかれる人々のすべて に対して, 私たちは正常の状態に立ち 戻るよう勧告する。私たちは、あらゆ る人が真の幸福の基礎として、正常な 結婚を受け入れるように と呼びかけ る。主は人間に、性を慰み物として与 えられたのではない。もともと結婚は 家族を前提としたものである。詩篇作 者は言った。

「見よ,子供たちは神から**賜**わった 嗣業であり,胎の実は報いの**賜**物であ る。

矢の満ちた矢筒を持つ人はさいわい である。……」(詩篇127:3,5)

栄えある親となる機会を故意に拒否する者は、哀れむべきである。親であることの大きな喜びは、本来の満たされた生活に欠くことのできないものである。初めに神がこう命じておられることを、私たちは知っている。「生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ。……」(創世1:28)

その時,記録者はこう記している。 「神が造ったすべての物を見られたと ころ,それは,はなはだ良かった。… …」(創世1:31)

私たちの神権時代にはこう啓示された。「……そは,この処女たちはわが誠命によりその子孫の殖えて地を充さんため,また永遠の世に於て最高の栄に進み,かくして人々の霊を生まんがために彼に与えられたればなり。ことに於てわが父の御業は絶ゆることなく,かくして御栄は父に在るなり。」(教義と聖約132:63)

私たちは世を風靡する離婚の風潮を 非難するものである。すべて夫は一生 涯妻を愛し、いつくしみ、守り、妻は 夫を愛し、敬い、支持すべきである。 歴史家モーセは主のみ言葉を告げて言 う。「それで人はその父と母を離れて、 妻と結び合い、一体となるのである。」 (創世2:24)

パウロは言う。「妻たる者よ。主に 仕えるように自分の夫に仕えなさい。 キリストが教会のかしらで……あられ るように、夫は妻のかしらである。 夫たる者よ。キリストが教会を愛してそのためにご自身をささげられたように、妻を愛しなさい。

それと同じく, 夫も自分の妻を, 自分のからだのように愛さねばならない。 自分の妻を愛する者は, 自分自身を愛するのである。自分自身を憎んだ者はいまだかつて, ひとりもいない。かえって, おのれを育て養うのが常である。」(エペソ5:22, 23, 25, 28, 29)

これはよく、夫にも妻にも誤解され やすい聖句であるが、よくよく思いは かり、天父のみこころに反しないよう にしなさい。キリストが教会を導かれ たように夫が家庭を導くとき、不満の 声はほとんど聞かれないであろう。

あなたの知っている離婚を考えてみなさい。ほとんどの場合,そこに利己心が存在することを発見するであろう。

たいがいの離婚は不当で、弱さとわがままから起き、当の本人たちが大きな不幸に見舞われるばかりか、かわいそうな子供たちの心を引き裂き、ぬぐいがたい打撃を与える。

汚れない子供たちが親の罪の結果を被るとき,親の利己心もそこにきわまる。離婚した人々は,いがみ合う家庭で育つより片親のもとで育てた方がよいとよく言うが,そのもっともらしい主張に対する答えはこれである。いがみ合う家庭に争うような親は不要である,と。

たくさんの離婚事例を調べた人があり、そのほとんどがわがままに起因することを発見した。できるだけたくさん取って、できるだけ少なく与えようとする態度である。調査では、当事者の90パーセントほどが離婚事由に双方

または片方の不貞をあげていた。

不貞はまったくのわがままである。 その罪に、他を思う心がたとえ一片で も見いだせるだろうか。従って、善良 な夫婦がもしわがままを捨てるなら ば、一致もできるであろう。

繰り返そう。増加しつつある堕胎は 罪悪行為である。計画的堕胎の恐ろし い罪は正当化しがたい。外聞を恐れて 面子のためとか,不都合を処理する, 責任を逃れるなどのために堕胎を行な うことは,もってのほかである。その ような手術をどうして甘受できよか。 また経済的に援助を与えたり,励 ましたりどうしてできようか。特殊な 場合に正しいとされることはあったち 場合に正しいとされである。私たちは 堕胎を罪の中でも重いものとし,断 固,民に警告するものである。

「堕胎は今日の最も忌まわしく,罪深い行為の一つである。なぜなら,この恐ろしい堕胎容認が,性的な不道徳をもたらしているからである。」(「神権会報」1973年2月,P.1)

幻覚剤については、「……教会は、幻覚剤および類似の薬物を常用すると、 肉体的、精神的な欠損をきたしたり、道 徳基準を低下させたりするので、誤用、 悪用することに一貫して 反対 して き た。」私たちはこの宣言を再認識する。

サタンのたくらむ最も恐ろしい悪事 のひとつとして、私たちは子供から老 人までの全教会員に、肉体の誤用から 来る束縛と苦痛と悔恨の繩目に甘んじ ることのないよう、声を大にして警告 するものである。

人の体は神の霊の子が宿る神聖な幕 屋であり、不当な扱いや神聖を汚す行 為は、ただ痛恨と後悔をもたらすのみ である。従って、汚れなく、清くあり なさい、と勧告したい。

ユダは言っている。「……終りの時に、あざける者たちがあらわれて、自分の不信心な欲のままに生活するであろう。」(ユダ18)

私たちはペテロと共に、「たましい に戦をいどむ肉の欲を避けなさい」と 勧める。(Iペテロ2:11) 見苦しい 露出行為やポルノグラフィー, その他 心と霊を汚す逸脱した行動を避けなさ い。自分の体であれ人の体であれ、愛 撫してはならない。正しい結婚関係に よる以外は性交渉を避けなさい。これ は私たちの造り主がいかなる場所、い かなる時にも禁じておられることであ り, 私たちはそれを再確認する。結婚 生活においてさえ、度を過ぎた行為や ゆがんだ形が存在することもあろう。 反することをしていくら正当化に努め ても, 天父の失望をとりなすことはで きない。これに関して、有名な伝道者 ビリー・グレアムの言葉を引用しよう。

「……聖書は神が造り、神が定め、神が祝福されたものとして性と性の正しい行使を公にしている。神御自らがふたつの理由で、両性に引き合う力を与えられたことは明白である。ひとつは人類の繁殖、ひとつは夫婦が真に一体となるための愛の表現である。神が人類最初の男女に『一体となれ』と命じられたことは、『生めよ、ふえよ』との戒め同様に重要であった。

聖書は、性に関する罪悪は、性に内在 する何かいやしいものを利用すること ではなく、清く善であるものを悪用す ることを明白にしている。また、性は すばらしい従者になり得るばかりか, 恐ろしい主人にもなり得ること,愛と 友情と幸福を培うこの上ない原動力と なり得るばかりか,世にある力のうち 最も破壊的な力になり得ることを,は っきりと教えている。」(ビリー・グレ アム"What The Bible Says About Sex"「性について聖書は言う」 Reader's Digest 「リーダーズ・ダイジェ スト」1970年5月号〔英文〕)

私たちは、あらゆる形の不貞行為に 対して、堅く変わらぬ反対の立場をと ることをここに再認識する。

さて、教会員の母親たちには神聖な 役割がある。以下の文は大管長会の声 明の抜粋である。私たちはこれを断固 再認識するものである。

「このように、母親になることは神聖な召しとなる。主の計画遂行への聖なる献身。自らの第一の位を保ち、『何にてもあれ、主なる彼らの神の命じたまわんすべてのことを彼らが為すや否やを見ん』(アブラハム3:25)ために第二の位の地上へ送られる人々を、肉体、精神、霊ともに養い育てることへの献身である。彼らが第二の位を保つように導くことは母親の務めである。『第二の位を保つ者は、とこしえに栄光をその頭に附け加えられん。』(アブラハム3:26)

この母親の神聖な務めは母親だけにできるものであって,他のだれにも譲り渡せないものである。乳母がしかり,保育所しかり,子守りしかり。ただ母親だけが,父,兄,姉の愛の手に助けられて要求に応じる充分な世話ができるのである。

金銭のため、名声のため、あるいは

社会奉仕のためとはいえ、ほかの仕事のために子供を他人の手に預ける母は、『わがままにさせた子はその母に恥をもたらす』(箴言29:15)ことを、心に銘記するがよい。この時代に主は言われた。両親が子供に教会の教義を教えないならば、『罪その両親の頭に留るべし』と。(教義と聖約68:25)

母性は神性に近い。それは人にできる最も気高く最も神聖な務めである。 その聖なる召しを尊ぶ女性は,天使に 次ぐ者である。あなたがたイスラエル の母よ,神はあなたがたを恵み,守り, 勇気と力、信仰と知識、聖なる愛と義務への献身を与えたまい、あなたがた自らの聖なる召しを存分に果たさせたもう。母親ならびに未来の母親たちよ。純潔でいなさい。清さを保ちなさい。正しく生活しなさい。あとに続く子孫が最後の世代に至るまで、あなたを祝福された者と呼べるように。」(『大管長会メッセージ』、 $Deseret\ News$ 「デゼレトニューズ」1942年10月、〔英文〕P.5)

これが私たちのプログラムである。 再確認をし、神のみ業を清く、まっす ぐに,大胆に押し進めること,そして 神を敬う生活を切に必要としている世 に,この真理の福音を伝えること。

永遠の生命が私たちの目標である。 それは、主が私たちに示して下さった 道に従うことによってのみ得られる。

それが真実で誤りのないことを私は 知っている。私は天父を愛し、御子を 愛し、弱い器ながら偉大な永遠のみ業 を押し進めることができることを誇り に思う。これらのすべてを真心からへ りくだり、イエス・キリストのみ名に より証申し上げる。アーメン。

末日聖徒イエス・キリスト教会第114回年次総大会における説教

祈りの重要さ

第 一 副 管 長N・エルドン・タナー

私はちょうど1年前の聖会で,教会幹部や中央管理会役員の支持と同時に,末日聖徒イエス・キリスト教会の予言者,聖見者,啓示を受ける者,新大管長として,ハロルド・B・リー大管長の支持を求める責任を与えられた。

リー大管長は万人から愛され、尊敬された傑出した力強い指導者であり、教会を管理した短期間に多くのことを成し遂げた。私たちは皆、その逝去を驚き、悲しんだ。しかし私たちは、主が豊かな報いとまた別の仕事に召すため、彼を呼び戻されたことを承知している。リー大管長の逝去に引き続き、私たちの愛するスペンサー・W・キンボール大管長が末日聖徒イエス・キリスト教会大管長、予言者、聖見者、啓



示を受ける者として召され,任命と聖 任を受けた。

私はキンボール大管長が主によって 選ばれ、この時期に教会を管理するよう予任されていたことを証したい。こ こに彼が健康体をもってこの栄誉にあ ずかり重責につくまでには、数々の奇 跡が行なわれている。キンボール大管 長は各地のステーキ部大会と今期の聖 会で心からの支持を受けた。彼の補佐 として召されたことは、実に名誉であ り特権であり祝福である。私は、自分 の決意と合わせ、主から知恵と判断力 と霊感と能力をたまわって、大管長の 指示のもと、大管長にも主にも認めら れる働きをなし、地上の神の王国建設 に力を捧げたいと願い、祈るものであ

私は各地の全教会員に呼びかける。 予言者,聖見者,啓示を受ける者,イエス・キリストの使徒,王国なるキリストの教会の大管長に神より召された者として,彼を一致団結して受け入れ,支持するように。また,自分に課せら れた責任を果たして,正義を押し進め, 自己の救いと昇栄をかち得るように。 さらに主は言われる。

「この故に汝ら教会員は,彼が上より受くるままに汝らに与うる誠命と彼の言とを皆心にとめてよく聞き,わが前に全く聖き道を履むべきなり。そは彼の言は,汝ら全き忍耐と信仰とを以て,あたかもわが口より聞くが如くにこれを受け入るべきなればなり。これらのことを為さば,地獄の門も汝らに打ち勝たざるべし。而して,誠に主なる神は汝らの前より暗闇の力を追い払い,汝らの為と神の御名の栄光のためにもろもろの天をも震い動かしめん。」(教義と聖約21:4—6)

末日聖徒イエス・キリスト教会が主の指示により組織されたのは今からちょうど144年前で、この末の世のキリストの教会の初代大管長として主より召されたのは予言者ジョセフ・スミスであった。そのときに先ほど引用した指示が教会員に与えられたのである。神の王国建設を促進し、真理と正義を広め、人々をキリストに導くことは私たち全員の責任である。

また来週は、主なる教い主がかの偉大な復活の奇跡によって死のかせを砕き、復活体として墓からよみがえられたことを祝う記念の日である。あらゆるキリスト教徒が生ける神の子イエス・キリストのなしたもうた大いなる犠牲に感謝の心を向けることは、自然であり当然な正しいことである。主はあなたがたや私を含めて全人類のために罪の赦しを受け、復活し、不死不滅と求適の生命にあずかるようにと、みずからの命を捧げて下さった。なぜならば主が言われているように、「……こ

れわが業にしてわが栄光, すなわち人 に不死不滅と永遠の生命とをもたらす なり」(モーセ1:39)だからである。

そしてまた、「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります」(ヨハネ17:3)とも言われた。

ョハネはこう記録している。「イエスは……言われた, 『わたしはよみがえりであり, 命である。わたしを信じる者は, たとい死んでも生きる。また生きていて, わたしを信じる者は, いつまでも死なない。……』」(ョハネ11:25,26)

イエス・キリストの犠牲と大いなる 復活の奇跡と世に対するキリストの教 えについて, 今大会で多くのことが言 われた。これからもまたさらに語られ るであろう。私たちはただキリストに より、キリストを通してのみ復活と死 後の生命への希望を抱くことができる のである。主は予言者たちや御自身の 教えを通じて,私たちに生命と救いの 計画を与えられた。それを受け入れ, 従うならば, 地上にあってものちの永 遠の世にあっても、最も大いなる喜び と成功と幸福が得られるであろう。主 は地上におられた間に祈りの重要さと いかに祈るかを教えられた。しばしの 時間をとって、それについてお話した いと思う。

主は言われた。

「また祈る時には、偽善者たちのようにするな。彼らは人に見せようとして、会堂や大通りのつじに立って祈ることを好む。……

あなたは祈る時,自分のへやにはい り,戸を閉じて,隠れた所においでに なるあなたの父に祈りなさい。すると 隠れた事 を見ておられるあなたの父 は、報いてくださるであろう。

……くどくどと祈るな……。

だから,あなたがたはこう祈りなさい,(「だからあなたがたはこう生活しなさい」と言いかえることもできよう。)

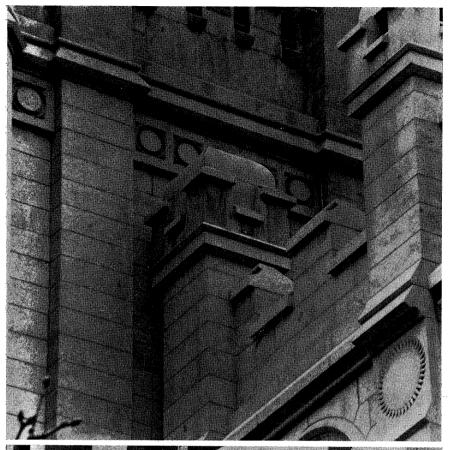
天にいますわれらの父よ, 御名があがめられますように。 御国がきますように。 みこころが天に行われるとおり, 地にも行われますように。 わたしたちの日ごとの食物を, きょうもお与えください。 わたしたちに負債のある者をゆるし ましたように,

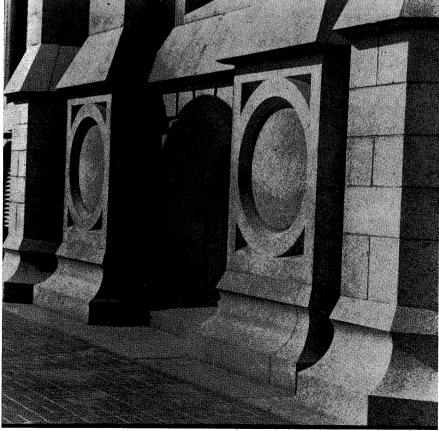
わたしたちの負債をもおゆるしくだ さい。

わたしたちを試みに会わせないで, 悪しき者からお救いください。王国 と力と栄光とは,永遠にあなたの ものだからです。アーメン。(マ タイ6:5-7,9-13,13は飲定 訳)

これは主の折りとしてよく引用され 決められたときにそのままを繰り返す ものと考えられているが,現に主は「こ のようにして祈りなさい」と言ってお られる。それは、主の言われたことは しっかり胸にとざめるべきだが、祈り は私たちと天父との直接の個人的な関 係であり、感謝の気持ちを自分の言葉 で率直に表現し、そのときに必要な導 きと祝福を願う、真心からのものでな くてはならないということである。

まず、主が言われた通り、心を集中 して天父に話ができるように、戸を閉 めて世のわずらいを避けなくてはなら





ない。主が教えられたこの簡単な祈り の言葉の意味を考えてみよう。

主は「天にいますわれらの父よ」と 言われた。この言葉から、神は私たち の父,全人類の父であることがわかる。 また,だれであってもどこにあっても. すべての人は神を天にいますわれらの 父よと呼ぶように勧められている。前 もって約束がなくとも天父のところへ 行き,天父がそこにおられて話を聞き. 祈りに答えて下さると知って率直に思 いを打ちあけることができるのは,何 とすばらしいことであろうか。私たち は神が天にあって生きておられ,私た ちが天父の霊の子供であり、御子イエ ス・キリストがだれにでも神を父と知 って呼び求めるように教えられたこと を知っている。

次に主は「御名があがめられますように」と言われた。私たちの日々の行ないに、特に礼拝するときに、神のみ名をあがめることはいかに大切であろうか。私たちは、み名を聖いものとして尊び、他の人もそうするように手伝ってこそ、神のみ名をあがめることができる。また私たちは、愛と敬虔を示し、真心をもって礼拝し、神の栄光となるすべてのことを行なって、み名をあがめるべきである。

「御国がきますように。みこころが 天に行なわれるとおり,地にも行なわれますように」。この言葉を考えるとき,私たちはそれが成就できる道はただひとつ,天父を自分の神として受け入れ,戒めを守り,地上の神の王国発展のために働くことであると,認識しなくてはならない。神の教会,神の王国は現在地上に樹立されているが,私たちが神の教えを受け入れ,教えに従 い, それを世に伝えて初めて, 教会は 確立するのである。

主は1931年に予言者ジョセフ・スミスに言われた。

「神の王国の鍵はこの世の人の手に 委任され,福音はここより転じ行きて 世の果にまでも達せん。あたかも人手 によらず山より切り出されたる石の転 がり出でて,ついに全世界に充ち満つるが如し。

主の御名を呼びてこの世に神の王国を来らせ、世に住める人々をしてこれを受け、来るべき時代の備えを為さしめよ。その時、人の子は地上に建てうるべき神の王国にかなうため、彼の学光に輝く衣を召されて天の中より降りたもうべし。これを以て、願わくは国の来らんため、まず神の王国を出で行かせたまえ。神よ、かくして、地の前を征に於ける如く、地に於ても栄光あらせたまえ。またかくして、汝の敵を征服したまえ。誉と能力と栄光とは、ときはかきはに神のものなればなり。アーメン。」(教義と聖約65:2,5,6)

みこころが行なわれますようにと祈る人は、自分の分を果たすための用意をしなくてはならない。私がまだ少年の頃、父は、「祈りに答えてほしいなら自分で頑張るがいい」と言った。自分で何かをする用意もなく、御国がきますように、みこころが行なわれますようにと祈ってもむだである。

「わたしたちの日ごとの食物を,きょうもお与えください」という言葉を考えるとき,それを「わたしたちの日ごとの必要物を,きょうもお与えください」と言い換えることができよう。 私たちは持ち物のすべてをまったく主に頼っていることを認識すべきだから

である。主は私たちの造り主, すべて のものを与えて下さる御方である。主 は私たちに, 思考し, 推理し, 学び取 る頭脳を与えて, 私たちが知識と技術 を用いて物を豊かに生産し, 自分の用 を満たし、隣人にも分けるようにと望 んでおられる。私たちは自分に必要な すべてのことと, 自分のためになるす べてのことについて祈るように勧めら れている。ふさわしい状態で天父を呼 び求め、日常生活の恩恵とすばらしい 祝福のすべてに感謝を表わし、助けを 願うことはいかに大切であろうか。祈 るときに, それらの祝福を自分や他人 のために, また主のみ業と主の御名の 栄光のために賢明に用いようと決意す べきである。私たちが神のみこころを 行なってこそ, 主権者たる神を認める ことになるのである。

「わたしたちを試みに会わせないで、悪しき者からお救いください。」 この 言葉を考えてみると、天父が私たちに 聖典を与え、予言者を送って私たちを 教えて下さり、私たちがその教えを受け入れたときに誘惑が避けられること を認識すべきである。 戒めを守り、 イエス・キリストの教えに従えば、誘惑に 対抗する力が与えられる。また、悪の 誘惑を受けるような立場に身を置かないので、私たちは悪から救われる。

マルコ伝にはこう書いてある。「誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていなさい。心は熱しているが、肉体が弱いのである。」(マルコ14:38)私たちは勇気と力と望みと決意と、正直、真実、貞潔、慈善、徳および自分にしてほしいことを人に行なう能力を求めて祈らなくてはならない。常に祈りをもって真理を探究するときに、私

たちは徳高きこと、好ましきこと、よき聞こえあること、あるいは褒むべきことをたずね求めなくてはならない。そうすれば主は、私たちの願いによく答えてくださるであろう。「わたしたちを試みに会わせないで」ください、そうすれば私たちは悪から救われるのである。

「わたしたちに負債のある者をゆるしましたように、わたしたちの負債をもおゆるしください。」 この言葉について考えてみよう。マタイの記録したこの言葉を、ルカやマルコと比べてみるとおもしろい。ルカは、「わたしたちに負債のある者を皆ゆるしますから、わたしたちの罪をもおゆるしください」(ルカ11:4)と書いている。

またマルコはこう表現している。 「また立って祈るとき,だれかに対して,何か恨み事があるならば,ゆるしてやりなさい。そうすれば,天にいますあなたがたの父も,あなたがたのあやまちを,ゆるしてくださるであろう。 (もしゆるさないならば,天にいますあなたがたの父も,あなたがたのかも、あなたがたのかも、あなたがたのあやまちを,ゆるしてくださらないであろう)。」(マルコ11:25,26)

主は言っておられる。「主なるわれは、その赦さんと欲する者を赦す。されど汝らにはすべての人を赦すことを求めらる。」(教義と聖約64:10) さらに、私たちは7度を70倍するほど、何回でも人を赦すようにと言われている。私たちは、主に自分の罪を赦していただこうとするときに、必ず友や隣人を赦しているかどうか、胸に手をあてて問うてみるべきである。私たちが皆、隣人を愛し、赦したならばいかにすばらしいことであろうか。そうしたとき

に,主に自分の悪かった行ないを赦し てほしいと願いやすくなり,悔い改め て悔い改めにふさわしい実を生じたと きに,神の赦しと慈悲を自分に期待で きるのである。

そのような赦しについて, 聖典は明 快である。こう書かれている。「もし も, あなたがたが, 人々のあやまちをゆ るすならば, あなたがたの天の父も, あ なたがたをゆるして下さるであろう。 もし人をゆるさないならば, あなたが たの父も, あなたがたのあやまちをゆ るして下さらないであろう。」(マタイ 6:14.15)

さらにまた、「この故にわれ汝らに告ぐ、汝ら互いに赦し合うべきなり。 そは、人その兄弟の過ちを赦さざれば、 その人主の前に罪に値する故にして、 そは更に大いなる罪なお彼に在ればなり。」(教義と聖約64:9)

私たちの主は十字架の上で、赦しの精神の模範を示された。「父よ、彼らをおゆるしください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」(ルカ23:34)と。また、迫害され、石を打たれた忠実な弟子ステパノについては、「そして、ひざまずいて、大声で叫んだ、『主よ、どうぞ、この罪を彼らに負わせないで下さい』。 こう言って、彼は眠りについた。」(使徒7:60)と書かれている。

この偉大な悔改めと赦しの原則を私 たちの生活に実践することはいかに大 切であろうか。隣人に悪意や悪感情を いだいて赦さない者は,不快と不安な 心を持った不幸な人で,そのままいく ならば魂が毒され,自分の内に一層大 きい罪を残すことであろう。他人に悪 意や悪感情をいだいていた人が,勇気 と力を得て、あとになってからその人 のところへ行ってあやまり、愛を示し て和解をし、新しい良い関係を作るこ とができて、ふたりとも大いに救われ、 幸せになる、といった話は数知れない。

さて、では「王国と力と栄光とは、 永遠にあなたのものだからです。アーメン」という言葉について考えよう。 再び、神は私たちの父であることが思い出される。また、私たちの求める王 国が神の王国であること、そしてあらゆる善は私たちの力で達成できるのではなく、神の力と神の栄光によることに気づく。私たちは、神の戒めを守り神と隣人に仕えて感謝を表わすことの大切さを知って、自分の受けているすべてのものを神に感謝すべきである。

願わくは、世の救い主、神の御子イエス・キリストがあなたがたや私のためにこの世に来て命を捧げて下さったことを常に忘れず、御子の教えを生命と救いの道として受け入れ、不死不滅と永遠の生命を受ける備えをなして御子の犠牲を受けるにふさわしい生活をするように。そうしたときに、私たちは神のみ名をあがめ、自分に救いをもたらすのである。

「アーメン」というのは、言われたことを厳粛に心から確認し、承認する結びの言葉である。私たちは自分の言動でこの言葉を裏付けようではないか。

祈るときには、ゲッセマネの園のイエス・キリストの祈りを思い出そう。

「それから、イエスは彼らと一緒に、ゲッセマネという所へ行かれた。そして弟子たちに言われた、『わたしが向こうへ行って祈っている間、ここにすわっていなさい』。 そしてペテロとゼベダイの子ふたりとを連れて行かれた

が,悲しみを催しまた悩みはじめられた。そのとき,彼らに言われた,『わたしは悲しみのあまり死ぬほどである。ここに待っていて,わたしと一緒に目をさましていなさい』。 そして少し進んで行き,うつぶしになり,祈って言われた,『わが父よ,もしできることでしたらどうか,この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし,わたしの思いのままにではなく,みころのままになさって下さい』。」(マタイ26:36—39)

「わたしの思いのままにではなく, みこころのままになさって下さい」と 言えるように私たちが心の用意をする ことは,いかに大切であろうか。

さらに近代の主の言葉に耳を傾けよう。

「王国を与えられたるわが教会の人々よ聴け。地の礎を据え諸々の天と天の万群とを造り、生きて動き実在するすべてのものを造りたる者の言を聴きて耳を傾けよ。また言う、死の汝らを捕えざる様わが言を聴け。すなわち、うかと過すひと時に夏は過ぎ去り、刈り入れは終りて汝らは救われざるなり。御父と人との仲保者にして、また御父の前にとりなしをする者の言に耳を傾けよ。」(教義と聖約45:1一3)

神は生きておられ、私たちの敷い主 イエス・キリストにより、イエス・キ リストを通して、私たちの祈りをいつ でも聞いて答えて下さることを、証申 し上げる。私たちは神の教えと戒めに 従うことにより、地上の神の王国建設 に貢献し、神のみ名をあがめることが できるのである。そのようにできるこ とを、イエス・キリストの御名によりへ りくだり祈るものである。アーメン。

聖

霊

第 二 副 管 長 マリオン・G・ロムニー

愛する兄弟姉妹の皆様,私はこの会の開会でなされた主のみたまを求める祈りに、国籍人種のいかんを問わず皆様の力添えを願うものである。私の話の主遅から、もし私の話に主のみたまが伴わなかったならば、言葉は空を打つ無益なものとなるからである。

末日聖徒イエス・キリスト教会の信仰箇条第1条には、「われらは、永遠の父なる神と、その御子イエス・キリストと聖霊とを信ず」と言われている。

1年前の大会では、永遠の父なる神について話があった。半年前の大会のテーマは、神の御子イエス・キリストであった。そしてきょう、私たちは聖霊について神より啓示された幾つかの真理を考えてみよう。

どの聖典も聖霊のことを教えている。聖霊は慰め主,神のみたま,聖きみたま,真理のみたま,あるいは主のみたまと呼ばれることがある。

それらの聖典によれば, 聖霊は一個 の御方である。

予言者ジョセフ・スミスは言った。 「御父は,人間の有する肉体と同じく 触知し得る骨肉の体を有したもう。御 子もまた然り。されど,聖霊は骨肉の 体を有ちたまわずして霊の御方なり。 ……」(教義と聖約130:22)

イエスは聖霊を男性の呼び名で呼ば れた。弟子たちに向かい, このように



言われたのである。

「……わたしが去って行くことは, あなたがたの益になるのだ。わたしが 去って行かなければ,あなたがたのと ころに助け主はこないであろう。もし 行けば,それ(彼him)をあなたがた につかわそう。」(ヨハネ16:7)

さらに,

「……真理の御霊が来る時には,あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう。それ(he)は自分から語るのではなく,その(彼のhe)聞くところを語り,きたるべき事をあなたがたに知らせるであろう。御霊はわたしに栄光を得させるであろう。わたしのものを受けて,それをあなたがたに知らせるからである。」(ヨハネ16:13,14)

「聖霊は御自身を人の姿かたちに現わすことがおできになる」とジェームズ・E・タルメージ博士は書いている。「それはみたまとニーファイとのすば

らしい出会いに示される通りである。 そのとき、みたまは予言者ニーファイ に姿を現わし, 希望や信仰について質 問をし、神のことについて教え、彼と 顔と顔を合わせて語られた。ニーファ イはこう言っている。『私は「みたま」 に、……人が人に物を言うように話し た。それは「みたま」が人の形をして 居たもうのを眼のあたり見たからであ る。しかしそれでも私はそれが主の 「みたま」であることを知っていた。 そして「みたま」も私に人が人に物を 言うように話したもうた。』」(Discourses on the Holy Ghost 「聖霊に関 する説教IN・B・ランドウォール編 〔英文〕P.13)

愛弟子ョハネは言った。「天においてあかしをする方が御三方おられる。御父と言と聖霊とである。そしてこの御三方はひとつである。」(欽定訳 Iョハネ5:7,8)「一致する」のはもちろん,御父と御子と聖霊が思いと目的において一致することにほかならない。御三方について予言者ジョセフは言った。

「……この御三方はひとつである。 言い換えれば、御三方は万物を司るた ぐいなく偉大な至上の管理体を成して おり、御三方により万物が創造され、 ……この御三方で神会が構成されてお り、この意味で御三方はひとつなので ある。」(ブルース・R・マッコンキー Mormon Doctrine「モルモンの教義」 第2版〔英文〕 P. 320より引用)

神会の一員として御父と御子とひと つである聖霊は、御父と御子のように 全知であられる。聖霊は「事物の…… 知識」(教義と聖約93:24)を有した すべての真理を理解する。

キリストの光が「神の前よりさし出でて広大なる宇宙に満ち充」つる(教義と聖約88:12)ように、聖霊の影響力、 賜は同時にあらゆる場所に現われる。

「聖霊が……くだった」(使徒11: 15)「聖霊に満たされて」(ルカ1: 15)「聖霊の賜物」(使徒2:38)「聖霊を受けよ」(ヨハネ20:22)「火と聖霊とのパプテスマ」(教義と聖約20:41)などという聖典の記述は必ずしも一個の御方としての聖霊をさすのではなく、その力や影響や賜を言うのである。

聖霊の重要な働きのひとつは、御父と御子を証することである。天使がアダムに語ったあの日、アダムが捧げた犠牲は「御父の生みたもう……ただ独りの御子が犠牲となりたもうことのひながたなり」と告げられ、「聖霊アダムに下りて」御父と御子の証をしたのである。(モーセ5:7,9)

イエスがバプテスマを受けられたとき、聖霊は「はとのように下って」(マタイ3:16)キリストの神性を証した。イエスはキリストであると知った人は、皆その証を聖霊から受けている。パウロはコリント人へ宛ててこう書いた。

が、神の霊によって語る者はだれも……聖霊によらなければ、……『イエスは主である』と言うことができない。」
(コリント12:3)

イエスは、「あなたこそ、生ける神 の子キリストです」というペテロの言 葉に答えて次のように言われたとき、 そのことを意味されたのである。

「バルョナ・シモン, あなたはさい わいである。あなたにこの事をあらわ 問うならば、神は聖霊の力によってこの記録が確なものであることをあなたたちに示したもうにちがいない。」(モロナイ10:3,4)

そしてそのあとに,大きな約束を加 えている。



したのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である。」(マタイ16:16,17) 聖霊は御父と御子の神性を証するだけでなく、真理、特に福音の真理を証する。

モロナイは書いている。「……私は あなたたちにすすめたい。あなたたち はこの記録を読む時に、……それが真 実なものかどうかをキリストの御名に よって永遠の父なる神に問え。もし誠 心誠意でその上キリストを信じながら 「そして聖霊の力によって一切の事 の事実であるかどうかがあなたたちに 解る。」(モロナイ10:5)

何千何万の人がこのチャレンジを試 し、その後聖霊の力によって記録が真 実であることを証している。

聖霊は真理を証されるだけでなく、 真理を啓示し、教える御方でもある。

救い主は弟子たちに、「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである」と言わ

れた。

「わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って……すなわち、……聖霊は、あなたがたにすべてのことを**教え**、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起こさせるであろう。」(ヨハネ14:16,26)

「あなたがたが会堂や役人や高官の前へひっぱられて行った場合には,何を弁明しようか,何を言おうかと心配しないがよい。言うべきことは,聖霊がその時に**教えて**くださるからである。」(ルカ12:11,12)

パウロはコリント人に宛てて書いた。

「ところが、わたしたちが受けたのは、この世の霊ではなく、神からの霊である。それによって、神から賜わった恵みを悟るためである。この賜物について語るにも、わたしたちは人間の知恵が教える言葉を用いないで、御霊の教える言葉を用い、霊によって霊のことを解釈するのである。」(【コリント2:12,13)

私たちに聖典があるのは聖霊のおかげである。聖霊はその中の真理の福音を啓示したばかりか、予言者たちに予言のみたまも与えられた。

ペテロは言った。「聖書の預言はすべて,自分勝手に解釈すべきでない……。なぜなら,預言は決して人間の意志から出たものではなく,人々が聖霊に感じ,神によって語ったものだからである。」(\mathbb{I} ペテロ1:20,21)

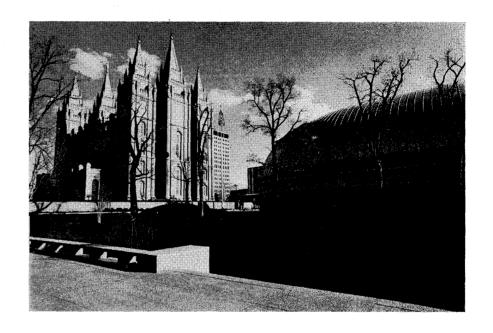
記録には、はじめに「……聖霊アダムに下りて……アダム神を讃めて『みたま』に満たされ、この世にあるすべての眷族に就き予言し始めて言いけるは……」(モーセ5:9,10)とある。いつの時代もそうである。ルカは、

バプテスマのヨハネの父ザカリヤが, 「聖霊に満たされ,預言して言った… …」(ルカ1:67)と記している。

この末日の神権時代の主の約束,すなわち「神は……聖霊の言い尽し難き 賜によりて……知識を汝らに与えたまわん」(教義と聖約121:26)という言葉は,どのようにしてその言い尽し難

テスマを受けていただけで、聖霊はまだだれにも下っていなかったからである。そこで、ふたりが手を彼らの上においたところ、彼らは聖霊を受けた。」 (使徒 8:14-17)

パウロがエペソに来て、ある弟子たちに出会ったとき、「彼らに『あなたがたは、信仰にはいった時に、聖霊を



き賜が与えられるのか, という疑問を 提訴する。

所定の方法は、主イエス・キリスト を信じる**信仰**、罪の**悔い改め**、罪の赦 しのために水に沈められるバプテスマ とそれに引き続く**按手礼**である。

使徒の教会にあっても, この方法に 従い聖霊が**投**けられた。

「エルサレムにいる使徒たちは,サマリヤの人々が,神の言を受け入れたと聞いて,ペテロとヨハネとを,そこにつかわした。ふたりはサマリヤに下って行って,みんなが聖霊を受けるようにと,彼らのために祈った。それは彼らはただ主イエスの名によってバプ

受けたのか』と尋ねたところ,『いいえ,聖霊なるものがあることさえ,聞いたことがありません』と答えた。『では,だれの名によってバプテスマを受けたのか』と彼がきくと,彼をづけたのか』と彼がきくと,彼を受けまれ。そこでパウロがテスマを受けった,『ヨハネは悔改めのバプテスマをとによれたが,それによって,自分のを信じ入れたが,それによって,自分のを信じ人よった,人々に勧めたってある』。人よっに,人々に勧めたってある。名にウはこれを聞いて,主ないて、聖霊が彼らにくだり,それから彼らは異言をおって、まった。

たり,預言をしたりし出した。」(使徒19:2-6)

主はこの末の世の教会の長老たちの義務を述べた中で、「バプテスマを受けて教会に入りたる者に、聖典の示すところに則り、火と聖霊とのバプテスマを受くる按手を施して教会員たることを確認し」(教義と聖約20:41)と言われた。

また伝道の業に数人の兄弟を召したときには、こう言われた。

「……われ汝らに一つの 誠 命 を 与 う。汝らこの民に中に行き,その名をペテロと言いし古えのわが使徒が言いし如くこの民に言うべし。

『……主イエスの御名を信ぜよ。罪を赦さるるために聖き誡命に従い,悔い改めてイエス・キリストの御名によりてバプテスマを受けよ。而して何人にてもかくする者は,との教会の長老の按手によりて聖霊の賜を受くべし』と。」(教義と聖約49:11-14)

聖霊の賜とは、その人が神の戒めに 従っている限り与えられるみたまの導 きと教化と交わり、また聖きみたまの 影響を受ける権利のことである。

聖霊の賜を受けることの大切さは言い尽くせない。それは、ヨハネの言う 火のバプテスマであり(ルカ3:16参 照)、イエスがニコデモに語られた霊に よる誕生である。

「よくよくあなたに言っておく。だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない。」(ヨハネ3:5)

聖霊を受けることは、罪に悩む魂を いやし、赦しを生じさせる療法である。

キリストの教会を他のすべての教会 および宗教と区別する目印は、教会員 が受ける聖霊の賜である。

それはまた, 末日聖徒イエス・キリ

スト教会を他のすべての組織, 団体と 区別するものでもある。

予言者ジョセフ・スミスとエライヤス・ヒグビーは1839年に、バン・ビューレン大統領との会見後、ワシントンD・C・からハイラム・スミスに手紙を送った。その中にこう書かれている。

「会見の中で、大統領に現在の他の 宗教と私たちの宗教の違いはどこかと 質問された。ジョセフ兄弟はバプテス マの様式と按手による聖霊の賜が違う と言った。私たちは、他の事柄は皆聖 霊の賜に包含されたと思っている…」 (Documentary History of the Church「教会歴史記録」第4巻〔英文〕 P. 42)

それはそのはず、聖霊は啓示者だからである。聖霊の賜は「……啓示の『みたま』なり。……これはモーセがイスラエルの人々をして乾ける土を踏みて紅海を渡らせこれを導きし『みたま』なり。」(教義と聖約8:3)と、主は言われた。

神が生きておられ、御子イエス・キリストは私たちの救い主、贖い主で、キリストの福音は救いの計画、永遠の生命への道であり、末日聖徒イエス・キリスト教会はキリストの教会で、福音を宣べかつ救いの儀式を執り行なうための権能を持ち、教会はそこから活力と力と権威を受けているという証は、聖霊から教会員個人に与えられる。

愛する兄弟姉妹,友人の方々,国籍 人種のいかんを問わずあらゆる皆様方 に,私がこれまでお話してきたすべて のことが真実であると,証申し上げる。

聖霊は私に、それが真実であると啓示された。神は生きておられること、私たちは神の子供であること、キリストは生きておられること、その福音は真実であり、末日聖徒イエス・キリス

ト教会はイエス・キリストの教会であること、スペンサー・W・キンボール大管長は主の教会を管理するため主より召された予言者であること、聖霊はすべてのことを啓示し、証する御方であること、そして私たちは皆モロナイの言うように聖霊の力によって「一切の事の真実であるかどうか」がわかること(モロナイ10:5)を、私は聖霊の力により、知っている。

私は真心からへりくだり、皆様方が 主イエス・キリストを信じて、悔い改 め、主の御名によりバプテスマを受け、 主の教会の長老たちの手によりこの言 い尽くし難き聖霊の賜を受けられるよ う、そしてその後、聖霊の導きに従う ようにとお勧めする。

そうする人は、救い主が来られると きに救い主にまみえる備えをすること になるのである。主はこう言われたか らである。

「わが栄光をもて来るその日に、十人の処女につきてわが語りしたとえは成就すべし。賢くして真理を受け入れ聖霊の導きに従い騙されざりし者は、誠にわれ汝らに告ぐ、彼らは伐られて火に投げ入れらるることなくその日に堪うるべし。地はゆずりとして彼らに与えられ、彼らは殖え満ちて強くなり、その子孫らは罪を犯すことなく育ちて救いに入らん。主は彼らの中に在りてその栄光は彼らの上に輝き、主は彼らの王にして立法者たるべし。」(教義と聖約45:56—59)

私たちすべての者が聖きみたまの導きに従って、その大いなる日に「堪うる」備えをなさんことを、イエス・キリストのみ名により、へりくだり祈る次第である。アーメン。

全世界における教会の発展は目ざましいものがあります。日本においても、今年7月よりウォルター・繁雄・照屋部長のもと、日本仙台伝道部が新設され、6つの伝道部と2つのステーキ部で管理されることになりました。また、日本伝道部のアボ伝道部長、日本中央伝道部の清水伝道部長のお二人は、3年間の任期を終えて帰国され、新たに、ラルフ・昇・士野日本東京伝道部長、赤木健二日本神戸伝道部長をお迎えしています。(従来の日本東伝道部は、日本札幌伝道部と日本仙台伝道部に2分されました。)

そこで,三人の新伝道部長より改宗談をお寄せいただきましたの でご紹介したいと思います。

■日本東京伝道部

伝道部長

ラルフ・昇・士野



愛する兄弟姉妹の皆様

私は妻と共に日本伝道部を管理する召しを受け、非常な光 栄を感じております。私共の弱点や不完全な点を考え、恐れ おののく思いでこの召しを受けました。けれども一方では、 これは予言者からの直接の召しですので、主が共にいて主の 業を成し遂げることができるよう助けて下さると信じ、いく ばくか心安らいでおります。

私たちは先祖の地で働くという初めての体験に胸をおどらせています。過去数年間、総大会に出席するため、ソルトレークシティーを訪れた日本の指導者や会員の方々と親しく交わる機会がありました。特に多くの方々が私の管理しておりました第一ブランチを訪れて下さいました。

私たちは再び親交を新たにし、主の業を成し遂げるために、 心と思いと力を尽くして皆様と働きたいと思っております。 実に、一致の中に真の力があり、私たちは消極的な考え、陰口、 噂、主の油注がれた者への悪口を棄てるならば、一致をもた らすことができ、さらに天父は私たちの心を満たし、神の王 国にあって永遠の生命と昇栄を得ることができるよう助けて 下さいます。永遠の生命を得る方法はひとつしかありませ ん。それは私利私欲を捨て、神の栄光のみに目を向けて、隣 人に奉仕することです。私たちの短い人生の間に、神の王国 の建設を手伝うためになすべきことはたくさんあります。 私は皆様と一層親しくなることができるように、簡単に私の改宗の次第をお話したいと思います。私は1923年2月11日にハワイで生れました。両親は熊本県の出身で、ハワイへ移民しました。私は仏教思想のもとに育ち、祈りの大切さを学びました。

末日聖徒イエス・キリスト教会はハワイにもしっかりと根 をおろしていましたが、日本人に福音が伝えられたのは, 1939年になってからでした。私は1940年に宣教師から教会に ついて初めて聞き、バプテスマを受けたのは1942年の2月で す。当時、家族の中でバプテスマを受けたのは私ひとりでし た。私はバプテスマを受ける前に、ジョセフ・スミスの証が 本当かどうか確信を得たいと思い、熱心に勉強しまた祈りま した。そしてモロナイ書10章の聖句を読んだとき、本当に知 るためには、チャレンジして、これらが真実かどうか神に尋 ね求めるしかないと思いそれを行なおうと決心しました。間 もなく私は胸の内に強い、燃えるような確信を得ました。す なわち、私が尋ね求めた事柄は真実であり、ジョセフ・スミ スは本当に天よりの御方を見、言葉を交わし、彼はアロン神 権とメルケゼデク神権を受け、神の権能によって完全な永遠 の福音を持つ教会を設立しました。私たちはこの 証 を 携え て、まだ救いのおとずれを耳にしていない人々に、真理を宣 べ伝えるために皆様のもとへまいります。

私は1944年にハワイの日本人伝道部で宣教師として働いた 経験があります。トモスエ・アボ伝道部長と同期でした。私 はアボ部長を非常に尊敬し、愛しております。同僚だったこ ともあり、教会で多くの経験を一緒にしました。そしてこれ らすべてが、私の信仰と証を強めてくれました。

私は人に不死不滅と永遠の生命とをもたらす一助をなすために、神の王国で奉仕の業につくことができることを天父に感謝しております。そしてこれが私たちの行き着く目標となるよう心から祈り、イエス・キリストのみ名により申し上げます。アーメン。

■日本神戸伝道部

伝道部長

赤木健二



私が初めて宣教師に会ったのは1940年,私が15歳のときで した。当時,父に先立たれた母はひとりで4人の子供を抱 え、アボ夫人経営のクリーニング店で働いていました。私たち家族は故アボ夫人(トモエス・アボ伝道部長の母堂)の御親切により、アボ御一家に身を寄せることができました。

ある日のこと、アボクリーニング店に若い宣教師がやってきて、ここで集会を開けるかどうかと尋ねました。アボ夫人はその申し出を承諾し、そしてアボ家族は1940年に毎日曜日集会を持つことになりました。初めの頃、私を含めて男の子たちは全員集会に参加せず、映画を見に行ったりいろいろな活動をして遊んでいました。私がきちんと集会に出席するようになったのは、是非とも出席するようにという母の強い勧めがあってからのことでした。またMIAが毎週開かれましたので、私はそこにも出席しました。

今振り返ってみますと、ちょうど私が教会のことを勉強していたとき、日本との間に戦争が始まりました。しかし私たちはいろいろな制約を受けながらも、戦争勃発当初は集会を開き続けました。そして私はこの戦時下にバプテスマを受けて教会に入ったのです。

数多くのすばらしい宣教師の努力のお陰で私の心に福音に対する証が目芽え,そして1942年,私は胸に熱いものを感じてバプテスマを受ける決心をしたのです。そのときは実にすばらしい気持で,私は確かにこの教会は真の教会であるとわかりました。今でも忘れられないのは私に福音を教えてくれたすばらしい宣教師たちで,感謝の気持でいっぱいです。中でも,私にバプテスマを施してくださったレイ・W・イプソン長老と,確認の儀式を行なってくださったロイド・スコット長老には特別の思い出があり,感謝に堪えません。

あの時以来、私は次から次へと福音が真実であることを証するすばらしい経験をしてまいりました。

私は皆様方に、神は生きておられ、イエスはキリストであり、また今日の大管長スペンサー・W・キンボールは生ける神の予言者であることを証致ます。

■日本仙台伝道部

伝道部長

ウォルター・繁雄・照屋



30年前のことです。ある美わしい日曜日の午後,私はラハイナからワイルクへ旅する途中,マウイ島に立ち寄ったときのことでした。オートバイを道の傍に止めて,モロカイ,ラナイ,コホーラエの島々が浮ぶ太平洋を眺めたとき,思わずこう思いました。「本当に美しい島々だ。それにひきかえ,人の生命は何とはかないものだろうか。すべてのものが一瞬にして終りを告げてしまうとは。」

友人とバーベルを使って体をきたえていたときのことでした。だれかが、「MIAという宗教がやってきたそうだ。ピクニックもするらしいよ」と話しているのを耳にして、私はそのピクニックに参加し、宣教師に会いました。そして日曜学校に誘われました。そのとき、ハワイ大学に通っていた兄がちょうど夏季休暇で帰郷していましたので、ふたりで、初めて末日聖徒の日曜学校に出席しました。

開会の讃美歌は、「うるわしき朝よ」でした。私は歌いながら、この歌詞に強い感銘を受けました。それまでに経験したことのない気持におそわれました。そしてこれは本当のことだ、父なる神と御子がジョセフに現れたもうたと私に語りかけました。開会の祈りが終ると、これは本当に起こったことなのかと宣教師に尋ねました。すると宣教師はそれが真実であることを証してくれました。私はもっと知りたいという気持に駆られ、それ以来ずっと教会に出席してきました。

私は間もなくバプテスマを受け、1942年にハワイ神殿で妻と結婚しました。私たちは永遠の昇栄に至るまでの目標を立て、それ以来目標を達成しようと努力を続けています。

1950年に私は家族共々、フルタイムの伝道としてハワイ伝道部長会で働く召しを受けました。そして18ヶ月間宣教師たちと共に働きました。未知の分野に足を踏み入れる宣教師を見、また彼らの献身、勤務を見ては、私の証は強められました。そして全くの経験のない彼らが、伝道部を離れるときには、確固たる証を持ったすばらしい人に成長してゆくのを目にしてきました。

マウイ島に転居するまで、私はホノルルでハワイ大学の学生支部を管理する責任を受けていました。そして、若い会員たちと改宗者が福音のスピリットに満ちて、それを実践する姿に、大きな喜びに満ちた毎日を送っていました。そしてある日、ソルトレークシティーのマリオン・G・ロムニー副管長より電話があり、私に日本仙台伝道部を管理するようにとの要請がありました。私は主の業に召されることをこの上ない名誉に感じています。また主の業を行なうことは特権であると共に祝福であると考えています。私は最善を尽くして、義務を果たそうと考えています。そして、主の助けによって、不可能なことは何ひとつないことを知っています。

私は私が天父の教会に属しており、イエスが私を贖って下さる方であることを知っています。主の戒めを守るとき祝福を受けることを聖典からまた私自身の経験から知っています。私たちが世に輝く光となることができるよう、神が祝福したまわんことを。

もはや見知らぬ人ではなく 神の家族なのである

日本東京ステーキ部 メルケゼデク神権MIA評議会



「もはや見知らぬ人ではなく、神の家族なのである」をテーマに、メルケゼデク神権MIA大会が7月4日から3日間、福島県の裏磐梯で開かれました。 日本各地から集った約350名のヤングアダルト、スペシャルインタレストは、あいにくの雨にもめげずハイキングやサイクリングで、高原の初夏を楽しみました。

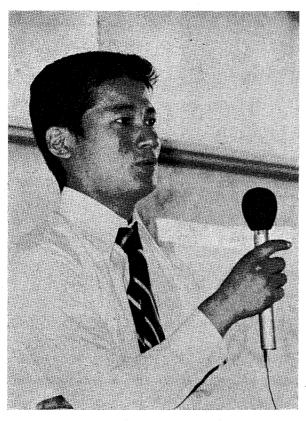
7月4日,第1日目の夜は、10~12名のグループに分かれての家庭の夕べ。互いの郷土の絵はがきなどを紹介して、自然の美しさと、創造主の偉大さをたたえ合うと共に、各グループとも本当の家族のようなきずなで結ばれることができま

した。

2日目。昨日の雨で閉じ込められた気持がどうしてもおさまりません。少しの晴れ間をぬって、ハイキングや湖上遊覧へと出かけたり、午後からはダンスや音楽やタレントショーなど、それぞれに楽しいひとときでした。夜はキャンドルサービスとゲーム大会。おごそかな中でのキャンドルサービス。そして伝道ゲームは、私たちに思わぬ収穫をもたらしてくれたのです。

3日目。2日間降り続いた雨もようやく上がりました。インスティチュートの教師など先輩指導者を囲んでのセミナー







少しの晴れ間をぬってハイ キングに出かけます。

証会で証する兄弟

は、日頃悩んでいたことを話し合い、考え合い、それぞれ新たな希望と勇気を得ることができました。セミナーの会場や証会の会場から流れ出る讃美歌が、すがすがしい夏山に響き渡ってまるでシオンの中にいるような気持ちにさえしてくれました。

証会の会場を訪れてみると3日間を通じてさらに深められた,自分が神の子供であり、召された者、神から祝福を賜わっている者であるとの確信に満ちた証、神様への心からの感謝の言葉が続き、「雨降って愛かたまる」の言葉が飾られているごとく、涙の大雨がとめどもなく降っていました。

3日間大雨にみまわれた(3日目は涙の大雨)裏磐梯での大会も、神の王国発展のにない手として共に働く決意を新たにし、幕を閉じました。共に語り、共に笑い、共に証し合った若者たち、それぞれのワードや支部に帰っても、ひとつの感激を同じくした仲間としてのつながりは、いつまでも絶えることなく、さらに増し加えられることを望んでいます。

わたしたちは,もはや見知らぬ人ではないのです。神の家族として,祝福され,心の手をしっかり結び合うことができたのです。



